0022761000

0022761-000

ＤＣ４９３－２

ソ聯計画経済研究資料

日満財政経済研究会

１９３７

ADC

ソ聯計畫経済研究資料

内容目次

一、ソ聯第一次五ヶ年計畫ノ資金問題ヲ中心トシテノ考察
二、ソ聯第二次五ヶ年計畫ノ資金問題ヲ中心トシテノ考察
三、ソ聯国家計畫委員會研究資料

DC493
2

国立国会図書館
43.11.12

775417

昭和十二年三月

ソ聯第一次五ヶ年計画ノ資金問題ヲ中心トシテノ考察

日滿財政經濟研究會

昭和十二年二月

ソ聯第一次五ヶ年計畫ノ資金問題ヲ
中心トシテノ考察

日滿財政經濟研究會

要領

一、第一次五ヶ年計畫（一九二八—一九三二）ニ要シタル資金總額約五百二十五億留ニシテ、ソノ中約五割ハ工業（ソノ中約九割ハ重工業）、約二割ハ農業ニ用ヒラル、マタソノ中約四百億留ハ固定資本ニ用ヒラル。

一、總資金ノウチ約五百億留ハ國家豫算ヨリ支出セラレ、ソノ約八割ハ取引税（消費税）及國家企業收入ニヨリ、約一割五分ハ租税及公債（ソノ中公債ハ約五割）ニヨリ調達ス。

一、五ヶ年計畫ヲ通算シテノ公債總額ハ約三十七億留ニシテ、其ノ中約六割六分ハ勞働者、事務員ニヨリ、二割三分ハ農民ニヨリ所有セラレツツアリ。（一九三二年一月現在）

一、通貨膨脹ハ最初ノ約二十億留ヨリ最後ノ五十八億留マテ、五ヶ年間ニ約三倍トナル。

一、物價騰貴ハ生活必要品（五品）ノ小賣自由市場ニ於テ、五ヶ年間ニ約二十三倍ニ騰貴セリ。

ソ聯第一次及第二次五ケ年計畫ニ就テ

第一次五ケ年計畫

一、意義―註(1)國民經濟ノ社會主義的改造ノ展開セラレタル計畫テアリ、ソ聯ノ工業化、農村ノ社會主義的改造、國內ノ經濟組織ニオケル資本主義分子ノ克服及ヒ社會主義分子ノ强化、並ニソ聯ノ國防力增進等ヲ目的トスル。（尙ホ第一次五ケ年計畫ハ當初一九二八年十月一日ニ始マリ一九三三年九月卅日ニ終ル豫定ナリシモ豫定ヲ繰上ケ一九三二年十二月卅一日マテ、即チ四ケ年三ケ月ヲ以テ終了シタ）。

註(1) 第五回ソヴエート大會決議、Summary of the fulfillment of the first five-year plan for the development of the national economy of the U. S. S. R. Moscow. 1933. P.9參照。

二、遂行―註(2)國民經濟ノ社會主義化部門ニ關スル五ケ年計畫ノ遂行狀態ハ大体左ノ數字ニヨツテ示サレル。

（單位十億留、價格ハ當該年度ニヨル）

部門	五ケ年計畫ニヨル投資額	遂行 一九二八—二九年	一九三二年	四年三ケ月間合計	割合 一九二八—二九年ニ對スル一九三二年	五ケ年計畫ニ對スル四年三ケ月ノ遂行
國民經濟社會化部門合計	四六・九	三・五	一九・五	五二・五	五五七・四	一一一・九
内譯 工業	一九・一	二・三	九・六	二四・八	四一七・四	一二九・八
ソノ内 A群（重工業）	一四・七	一・八	八・四	二一・三	四六六・七	一四四・九
農業	七・二	〇・九	五・一	一〇・八	五六六・七	一五〇・〇
運輸	九・九	一・一	三・六	九・八	三二七・三	九九・〇

註(2) OP. Cit., P.41

而シテ工業投資額ノ用途別割合ヲ見ルニ、註(3)（%）

投資先	一九二八—二九年	一九三二年
新建設	二七・七%	四六・五%
擴張ト改造	四五・五	二七・五
基本修理	九・五	四・〇
ソノ他ノ事業	一七・五	二二・二
合計	一〇〇・〇	一〇〇・〇

（多クノ場合、改造事業ハ、新企業ノ建設ト同様ノ固定資本ノ増大ト技術的水準ノ向上トヲモタラス。）

更ニ新規固定資本ノ増加分ヲ見ルニ、註(4)（單位十億留）

國民經濟部門別	一九二八—二九年	一九三二年	四年三ヶ月間ノ合計
國民經濟社會化部門總計	四四	一四五	四〇五
ソノ内			

工業	一八	五七	一五三
農業	〇七	三〇	九七
運輸	〇九	三二	八八

右ノ如ク社會化部門總計ノ實績ハ四百〇五億留テアルカ、ソノ結果計劃前ノ活動固定資本ノ二倍トナツタ。又工業固定資本ノ增加分ハ右ノ如ク百五十三億留ニ達シタカ、コレハ計劃前ノ固定資本ノ二倍以上ニ相當シ、重工業ニアツテハ三倍ニ相當スル。

更ニ重要工業五ヶ年間ノ投資割當額豫定ヲ見ルニ、（五ヶ年計劃第二案ニヨル豫定額）

工業部門	投下資本額（百万留）	全体ニ對スル比率（%）
金屬工業	五三三一	三一〇八
燃料工業	三〇七〇	一七〇六
織維工業	一六二六	一二〇九

	百万留	%
化學工業	二、〇四六	一一・〇七
建築材料工業	一、二五六	七・〇一
食料品工業	一、一六〇	六・〇六
合計	一五、六八九	八七・〇七

工業建設ノ爲メニ投下サル、資本總額ハ、百八十六億四千万留、（内重工業七八%、輕工業二二%）テアリ、コノ中特ニ新工業ノ建設ニ投下サレル資本總額ハ六十四億留餘ノ豫定テアツタ。

尚ホ工業固定及流動資本ノ五ケ年計畫ニオケル發展ヲ見ルニ（豫定額）

（單位百万留、各年末現在）

資本別	一九二七—二八年	一九三二—三三年	一九三二—三三年ノ一九二七—二八年ニ對スル割合
固定資本	七、七九二	二二、五一七	二八九・〇
ソノ内			
重工業	四、五一四	一六、二六五	三六〇・五
輕工業	三、二七八	六、二五四	一九〇・八
流動資本	三、七〇〇	七、九〇五	二一五・六

註(3) OP. Cit., PP. 42-43

(4) OP. Cit., P. 48

三 財源—社會主義的工業化ノタメニ投下セラレタ右ノ如キ巨額ノ資本ハ如何ニシテ調達セラレタカ。

(一) 國家豫算—註(5)先ツ形式的テハアルカ國家豫算ヲ檢討シヤウ。

（單位十億留）

支出方向	計畫ニヨリ五ケ年分トシテ豫定セル額	五ケ年計畫諸年中ノ實行額	五ケ年計畫遂行程度—實數
國民經濟社會化部門合計	二三四	四〇二	一六八（＋）
ソノ內			
工業及電化	八一	二三〇	一四九（＋）
農業	三四	八五	五一（＋）
運輸及通信	九一	一〇四	一三（＋）

右ノ支出ト對照セシメルタメニ、一九二八—一九三二年ノ國家豫算歳入ヲ掲クレハ、註(6)

（單位百万留）

歳入項目	一九二八—二九年	一九二九—三〇年	特設會計期（一九三〇年十—十二月）	一九三一年	一九三二年
社會化經濟資金（取引税及國家企業收入）	五五八一一	九〇四〇六	三四五三三	一三八七〇六	二一八七三九
增加 %	—	六一七	—	七三五	三七八
國民資金動員（租税及公債）	六七七一	一三三一六	四〇三六	三八六八五	四八九〇〇
增加 %	—	九九〇	—	一一三四	七〇五
ソノ内公債	二二七七	六四一二	二〇〇三	一五八〇八	三七五〇〇
其ノ他ノ收入	三七〇二	七八一五	二一四七	一七一四九	七七八一
合計	六六二八四	一一一五四七	四〇七三六	二〇四五四〇	二七五四三〇

右表中、社會化經濟資金トハ、國民經濟社會化部門ニテ調達セラル、歳入部分ヲ指スノテアッテ、ソノ構成要素ハ取引税、收益及ヒ鐵道純收入、償還金等テアル。就中取引税ハ一九三二年度社會化經濟資金ニ關スル國家豫算中、七二％六（一四九三四百万留）ヲ占メテキルカ、コレ註(7ノ2)ハ國營、組合經營商業及ヒコルホーズ商業ノ展開ニ基ツク。
（取引税トイフノハ大体、生産機關カラ販賣機關ニ製品カ移サレル場合ニ課セラレル消費税テアッテ、結局一般國民ノ負擔トナル。）
又國民資金動員トハ任意的（公債、國營貯金部預金及ヒマシン・トラクター・ステーシヨン株式等）タルト義務的（租税、公課）タルトヲ問ハズ、直接ニ國民資金カ徴收セラル、場合ヲ指ス。右表ノ如ク國民資金動員ニオケル公債ノ占ムル割合ハ、逐年増大シツヽアル。
今、國債所有者別ノ増加狀態ヲ見ルニ、註(7)

年次	對、國民負債總額	對勞働者、事務員負債	對農民負債	對、其他ノ住民負債
一九二八年十月一日現在總額（百万留）	六一五一	二七三六	一二三九	二一七六
獨立住民一人當リ（留）	七一	二三五	一八	五三七
一九二九年十月一日現在總額（百万留）	八七七二	五一八〇	一〇〇五	二五八七
一九三〇年十月一日現在總額	一八五七〇	一二〇三八	二九三二	三三六〇
一九三一年一月一日現在總額	二〇五九七	一五六三四	三七三六	三二三七
一九三二年一月一日現在總額	三七四九五	三四五九五	八七一六	四一八六
獨立住民一人當リ（留）	四九五	一二八九	一三七	八〇二

右ノ如ク一九三二年一月一日現在ノ國債額三七四九七百万留（國營貯金部ヲ含ム）ニ對シテ、勞働者、事務員ハソノ六六％、農民ハ二三％ヲ占ム。

註(5) op. cit., pp. 223-224

註(6)滿鐵經濟調査會編、一九三四年版ソウエート聯邦年鑑（昭和九年三月）P・333

(7)滿鐵、ソウエート年鑑 PP・337-338

（7ノ2）茂森唯士著、ソウエート・ロシヤ讀本（昭和一一年一二月）P・203

(二)工業自体ノ資本（國家豫算並ニ金融機關トノ關係）―國營工業ヘノ投資ニツイテハ、ソノ資本融通ノ源泉ニ從ツテ次ノ如ク系統ツケルコトカ出來ル。

註(8)ソ聯國營工業ノ投資財源（單位百万留）

財源別	一九二七／二八年	一九二八／二九年	一九二九／三〇年	一九三一年
最高國民經濟會議所屬ノ工業全投資額	一、九七八、一	二、四九三、〇	三、四九九、〇	六、九一八、二
工業自体ノ資本 (A)利潤	八一〇、〇	一、一〇〇、〇	一、四五〇、〇	二、七五〇、〇

(B)償却	四四〇〇	五〇〇〇	五七六〇	六五〇〇
國家豫算カラノ資本ノ流入	二五八九	四五〇〇	四一八〇	三七八九五
銀行組織ヲ經テノ資本ノ流入	四六九二	四六三〇	七〇五三〇	七二八九
ソノ内短期クレヂツトヲ經テノ資本ノ流入	五九〇〇	五四四〇	九五〇〇	五四三〇

右各項目ノ全投資額ニ對スル比率ハ、（％）

全投資額	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
(A)工業自体ノ資本利潤	四七・〇	四四・〇	四一・〇	四〇・〇
(B)償却	二二・〇	二〇・〇	一六・〇	九・〇
國家豫算カラノ資本ノ流入	一五・〇	一七・〇	一二・〇	四〇・〇

銀行組織ヲ經テノ資本ノ流入	二三・〇	一九・〇	三〇・〇	一一・〇
銀行ヨリノ流入資本總額ニオケル短期クレヂットノ比率ハ、(%)				
短期クレヂット	八三・〇	七四・〇	九〇・〇	七四・〇

右ノ如ク工業自体ノ利潤及ヒ償却カ常ニ五、六割ニモ達シテヰルコトハ注意セラルヘク、國營工業カ果シテ事實上斯クノ如ク收益性ニ富ンテヰタカハ疑問タラサルヲ得ヌ。尚ホ償却資金トハ、消耗固定資本ノ恢復ノタメニ毎年控除セラル、金額テアツテ、改造ノ財源トナルモノテアル。

註(8) 經濟批判會譯編、ソヴエート同盟計畫經濟(世界經濟叢書八)
(昭和七年八月) P. 186 ニヨリ改錄

(三)通貨ノ膨脹ーソ聯ハ既ニネツプ時代ノ中頃、一九二四年ニ四分ノ一準備法金本位制ヲ採用シテキタノテアリ、亂雜ナ幣制ヲ國立銀行券ト政府紙幣トニ統一シテキタノテアル。五ケ年計畫施行ノ直前タル一九二八年八月一日ニハ、政府紙幣ノ發行限度ヲ、國立銀行券發行高ノ七五%迄トシタノテアルカ、計畫施行ニ伴フ通貨量ノ増大ノ必要ニ迫ラレテ、一九三〇年九月十八日ニハ遂ニ一〇〇%ニマテ之ヲ擴張シタ。註(9)

而シテ國立銀行券ノ發行制度ハ四分ノ一比例準備法テアリ、政府紙幣モ國銀券ト同額マテシカ發行出來ヌノテアルカラ、大体コノ限度ニ達シタ一九三一年以後ハ、通貨増發ハ因難トナリ、專ラ公債政策ニ力點ヲ置クコトトナツタ。カクテ五ケ年計畫ノ初年末ニハ二十五億九千五百万留テアツタ公債額ハ、第二年度末ニハ三十二億二千百三十万留トナリ、其後引續キ著増スルニ至ツタ。註(11)

今通貨膨脹ノ狀態ヲ示セハ(補助貨ヲ含ム)

（單位百万留）

年次	通貨發行高	増加額	増加率
一九二四年一月一日	三二一、九	—	—
一九二五年一月一日	七四二、七	四二〇、八	一三〇・七二%
一九二六年一月一日	一、二六九三	五二六六	七〇・九〇
一九二七年一月一日	一、四一二、六	一四三、三	一一・二八
一九二八年一月一日	一、六六七八	二五五、二	一八・〇六
一九二九年一月一日	二、〇二七、八	三六〇、〇	二一・五八
一九三〇年一月一日	二、七七三、〇	七四五、二	三六・七九
一九三一年一月一日	四、三〇二、〇	一、五二九、〇	五五・一三
一九三一年六月一日	四、三五四、九	五二、九	一・二二
一九三二年六月一日	五、七八六、五	一、四三一、六	三二・八九
一九三五年四月一日	七、八七九、三	二、〇九二、八	三六・一六

右ノ如ク一九三〇年ヨリ一九三一年ニ至ル増加率カ最モ大テアル。而シテ一九三二年六月一日ニオイテハ、一九二八年一月一日ニ比シ、絶体額テハ三倍半ノ増加トナリ、又増加率テハ二四七%ヲ示ス。

註(12)通貨膨脹抑止ノ一助トシテ、一九三一年度以來、ソ聯當局ハ極力振替整理ニヨル決濟關係ヲ勸奬シ、例ヘハ一九三一年ノ國民經濟社會化部分ノ相互決濟關係ハ、全体ノ約七〇%（千六、七百億留）マテ振替整理ニ依ルモノテアツタ。（國營大企業間ニオケル貨幣ノ介在ヲ排除）

註(9)前掲ソウエート年鑑P. 358

(10)本稿、八頁公債計數參照

(11)日本經濟年報（第二五輯）P. 126. (U. S. S. R. Hand Book ヨリ)

(12)前掲ソウエート年鑑P. 361

四、

物價購買——ソ聯ニオケル物價構成ノ複雜性ハ定評ノアル所テアルカ、イマ自由市場物價ニツイテ當時ノ狀態ヲ推測スルニ、註(13)

小賣物價

品目＼年次	一九二八	一九二九	一九三〇	一九三一	一九三二
黒パン	一〇〇	二二五	三五〇	五二五	一、三二〇
馬鈴薯	一〇〇	一六〇	二八〇	五二〇	
牛肉	一〇〇	一二五	三五八	六六五	
バタ	一〇〇	二〇一	六〇二	九七八	
卵	一〇〇	一三四	三三〇	五七二	

エー・ハイマン「統一價格」經濟問題誌　一九三五、三
一九三二年ノ數字ハ、五品目ノ平均

勿論配給制度ニヨル價格ト自由市場ノ價格トノ間ニハ、三〇倍乃至四〇倍モノ開キカアツタノテアツテ、嚴密ナコトハ言ヘナイケレトモ、通貨ノ増大ニヨル物價騰貴ノ趨勢ハ否定スヘクモナカツタ。尙ホ右ハ消費財ニ關スルノテアツテ、生産財ニツイテハ、明カテハナイカ、如

何ニ政府カ組織的、計畫的ニ生產財價格ヲ强力ニ統制シテモ、通貨ノ膨脹ト消費財ノ高騰ノ存スル以上、何等カノ程度ニオイテ上昇シタテアラウコトハ疑ヲ容レヌ。

註⒀日本經濟年報(第二五輯) PP. 128-130

五、農業關係ーソ聯ノ莫大ナル支出ヲ賄ヒ、且ツ住民ノ食料ヲ供給スル上ニオイテ、農業ノ演シタ役割ハ大テアル。今試ミニ社會化農業ノ進展ヲ見ルニ、註⒁

年次	ソフホーズ 國營農場數	コルホーズ 共營農場數	共營農場加入農戸(單位千)	全農戸ニ對スル共營化ノ比率(%)
一九二七	―	一八八四〇	二八六一	一・一
一九二八	三一二五	三八一三九	三九五五	二・三
一九二九	三六四[illegible]	六七四四六	一九一九四	七・六
一九三〇	四八七〇	八五八六二	五九九八一	二三・六
一九三一	五三八五	二一一一〇〇	一三〇三三二	五二・七
一九三二	五八二〇	二一一〇五〇	一四九八一九	六一・五

又總播種面積中、國營農場、共營農場及ヒ個人農ノ占メル比率ハ(%)

作物別及年次		國營農場	共營農場	個人農
穀物	一九二八年	一・二	一・一	九七・七
	一九三二年	九・五	六九・五	二一・四
工業用作物	一九二八年	五・七	一・九	九四・四
	一九三二年	六・五	七五・九	一七・八
ソノ内 棉花	一九二八年	一・六	一・八	九六・六
	一九三二年	七・〇	六八・四	二四・六
亞麻	一九二八年	一・六	一・二	九七・二
	一九三二年	二・二	六五・五	五二・五
甜菜	一九二八年	二六・五	一・六	七二・一
	一九三二年	一二・九	七二・〇	一五・一

カクノ如キ著シキ農業ノ社會化ニ伴ヒ如何ナル事態ヲ惹起シタカ。農業中最モ重要ナル穀物ニツキ檢討スルニ、

年次	播種面積 單位百万ヘクタール	收穫高 單位百万トン	一ヘクタール當リ收穫單位ドッペルツエントネル	人口一人當リ穀物量單位ドッペルツエントネル
一九一三	一〇二・〇	八一・六	八・〇	六・五
一九二八	九二・四	七一・五	七・七	四・八
一九二九	九五・〇	七一・七	七・五	四・六
一九三〇	一〇五・六	八七・四	八・五	五・五
一九三一	一〇二・〇	六七・〇	六・五	四・七
一九三二	九八・二	六二・〇	六・五	三・八

更ニ別ノ調査ニ從ヘハ、註(15)

年次	穀物耕作面積、單位百万ヘクタール 總面積	冬穀用	夏穀用	一ヘクタール當リ平均收穫單位ドッペル・ツエントネル
一九一三	一〇二・七	—	—	七・九
一九二八	九二・二	三〇・七	六一・五	七・九

一九二九	九六〇	三二四	六四六	七五
一九三〇	九八六	三七四	六二一	八五
一九三一	一〇四五	三九六	六五〇	六七
一九三二	九九七	—	—	七一

即チ耕作面積ノ可成リノ増大ニモ拘ラス、穀物ノ收穫高ハ、一九三〇年度ヲ除イテハ、少シモ増加セス、寧ロ大ナル減少ヲ示シテキルノテアツテ、社會化工作カ案外不成績ナ結果ヲモタラシタコトヲ物語ル。

而シテ國家ニヨル穀物ノ調達高ヲ見ルニ、註(16)

年次	總收穫高 單位百万トン	國家調達高 絶体額 單位百万トン	國家調達高 總收穫高ニ對ス比率(%)	地方住民ヘノ殘高單位百万トン
一九一三	八二六	—	—	—
一九二八—二九	七三三	一〇八	一四七	六二五
一九二九—三〇	七二七	一六二	二二五	五五六

一九三〇—三一	八三五	二一二	二六五	六一四
一九三一—三二	七九〇	二三〇	三一九	四七〇
一九三二—三三	七九八	一八一	二三六	五一七

國家ニヨル調達ハ、主トシテ謂ハユル契約買付制度ニ依ツテ行ハレルカ、コノ制度ハ寧ロ強制徴發ニ近イカラ、住民ニトツテハコレノ増加ハ好マシクナイ。然ルニ右表ノ如クソノ總收穫高ニ對スル比率ハ愈々大トナリ、從ツテ住民ノ手取高ノ減少ヲ結果シテ、直接彼等ヲ壓迫シテヰル。農業ノ社會化乃至ハ集團化(コレクチビゼーション)カ所期ノ成績ヲ擧ケス、且國家ニヨル調達カ増大シタ結果ハ、如何ニ住民ヲ苦境ニ陷レタカ。又國内ノカカル狀態ニモ拘ラス、輸入ヲカヴアースルタメニ為サレタ穀物輸出カ、如何ニ不健全ナ性質ヲ有シタカハ、多言ヲ要スマイ。註⒄

註⒁ 前掲ソウエート年鑑 PP. 296-298

⒂ Professor Dr. Boris Brutzkus: Rutzlands Getreideausfuhr. (Weltwirtschaftliches Archiv, 38. Bd. 1933 II,) S. 495

註(16) Boris Brutzkus, a. a. O. S. 497

(17) Boris Brutzkus, a. a. O. S. 498 及ヒ Dr. Ewald Ammende, Human Life in Rusia (1936. London) PP. 47-48

六 外國貿易—第一次五ケ年計畫期ニオケルソ聯ノ貿易ハ、ソノ計畫遂行ノタメノ直接ノ重要ナル國家的手段トシテ、役割ヲ演シタ點ニ意義カアル。先ツ連年ノ輸出入額ヲ見ルニ、註(18)

（單位百万留）

年次 註(19)	輸出	輸入	合計	出(+)入(−)超
一九二七—二八年	七七七八	九四五五	一、七二三四	(−)一六七七
一九二八—二九年	八七七六	八三六三	一、七一三九	(+)四一三
一九二九—三〇年	一、〇〇二五	一、〇六八七	二、〇七一〇	(−)六六四
一九三一年	八一一二	一、一〇五〇	一、九一六二	(−)二九三八
一九三二年	五六三九	六九三七	一、二五七六	(−)一二九八

即チ元來出超國トシテ知ラレテヰタソ聯カ第一次五ケ年計畫期タル一九二八—二九年ヨリ一九三二年マテノ間ニ、純入超四億四千八百七十万留ヲ結果シタノテアツテ、ソノ輸入品目ハ如何ト見ルニ、機械器具金屬類、及ヒ金屬製品カ壓倒的多額ヲ占メ、一九三〇年度テハ輸入總額ノ六一%、一九三一年度テハ七五%、一九三二年度テハ七五%ニモ上ツテヰル。

コレニ對シ輸出品目ハ如何トイフニ、原料乃至ハ食料品トシテノ農產物、林產物及ヒ鑛產物カ多クヲ占メ、就中農產物カ重要テアル。（一九三一年度ノ輸出總額中、農產物ノ占ムル割合ハ四二%）而シテ農、林、鑛三者ノ合計ノ輸出總額ニ占ムル割合ハ、一九三〇年度テハ七八%、一九三一年度テハ七五%、一九三二年度テハ六九%トナツテヰル。

ソ聯カ第一次五ケ年計畫期ニ偶々世界恐慌ヲ與シタコトハ、如何ナル意味ヲモツカ。今貿易ノ側面ヨリコレヲ見ルニ、註(20)

(%)

年次	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
貿易價額	一〇〇	一一六	一〇六	七一	四七
輸出數量	一〇〇・〇	一二七・五	一三五・四	一一五・二	一〇七・二

即チ世界恐慌勃發ノ一九三〇年以降、ソ聯ノ輸出數量ハアマリ減少ヲ見ナイニモ拘ラス、貿易價額ハ著シク減退シテ犇ル。一部ノ論者ハ註(21)一九三一年以降ノ貿易額ノ減少ハ、ソ聯當局ノ計畫的方策ニ出ツル制限テアルトシ、又ソノ過程ハ世界恐慌ノ影響ヲ蒙ラストシテキルカ、斯クノ如キハ頗ル疑問テアラウ。豫定通リノ輸入ヲ遂行スルニ當ツテ、輸出商品ノ價格下落ニヨル外貨手取リノ著減ハ、是非トモ輸出數量ノ増大ニ俟タネハナラナカツタコトハ何ヨリモ明カテアル。又國家計畫（ゴスプラン）委員會ノ豫想ニ依レハ、一九三二—三三年度ノ貿易ハ輸出二六二七百万留、輸入二〇四〇百万留トイフ巨額ニ達スル筈テアツタ。註(22)ソ聯ノ輸出特産物タル原、食料品カ資本主義諸國ノ購買力ト密接ニ聯關シ、從

ツテ一朝世界恐慌ノ突發ニ當ツテ、行詰リニ逢着シ、以テソ聯五ケ年計畫ニ尠カラサル齟齬ヲ來サシメタコトハ疑フヘクモナイ。註(23)然ルニプロレタリア獨裁政權ニヨル專斷的貿易工作ヲ强行シタトコロニ、國內大衆ノ非常ナル窮境カモタラサレタノテアツタ。

貿易ヲ相手國別ニ見ルニ、ソ聯ヨリノ輸出テハ英・獨カ重キヲ成シ輸入テハ獨、米カ他ヲ壓倒シタ。

ソ聯ハ帝政時代ノ凡ユル債務ヲ破棄シテシマツタノテ、一時ハ外國ヨリノ資本ハ流入スヘクモナカツタ。併シネツプ時代ヲ經テ第一次五ケ年計畫時代ニ入ルニ及ンテ、列國モソ聯ノ發展性ニ着眼シ、コ、ニクレヂツトノ形式ニヨル資本ノ貸與ヲ許スニ至ツタ。ソ聯ハコノ比較的短期ノクレヂツトヲ輸入資金ニ利用シタノテアルカ、獨、伊、英ヲ主トスル九ケ國ヨリノソノ總額ハ、一九三〇年十月ニハ六億二千五百万留、一九三一年十月一日現在テハ八億五千五百万留ニ上ツタ。註(24)

註(18)茂森唯士著、ソヴエート。ロシヤ讀本 P.278

註(19) 一九三〇年度マテハ、年度カ二年ニ跨ツテキルノハ、經濟年度カ一〇月一日ニ始マリ翌年九月三〇日ニ終ツテキタタメテ、一九三〇年ノ一〇月一日ヨリ一二月三一日マテハ、「特設會計期」トセラレ、一九三一年度ヨリ曆年制トナツタ。

(20) M. Schirmunski, Plan und Autzenhandel, SS. 11-12. (Sowjetwirtschaft und Autzenhandel, Nr.4/5 15. Jg. 2. Feb-u. 1. Marzheft 1936,Berlin)ニヨリ作成

(21) M. Schirmunski, a. a. O. S. II

(22) H. R. Knickerbocker, Der Autzenhandel S. 252-253 (Die Rote Wirtschaft, 1932)

(23) H. R. Knickerbocker. a. a. O. S. 253

(24) H. R. Knickerbocker. a. a. O. SS. 249-250

―以　上―

昭和十二年三月

ソ聯第二次五ヶ年計画ノ資金問題ヲ中心トシテノ考察

日満財政經濟研究會

昭和十二年二月

ソ聯第二次五ケ年計畫ノ資金問題

ヲ中心トシテノ考察

要領

一、第二次五ケ年計畫（一九三三―一九三七）ノ中、一九三五年マテニ要シタル國家豫算ヲ通シテノ資金總額ハ、約九百五十億留ニシテ、ソノ約四割五分ハ工業（ソノ中約八割ハ重工業）ニ用ヒラル。

二、國家豫算ニヨル支出約九百五十億留ノ約七割五分ハ取引税（消費税）收入ニシテ、之ニ國營企業ノ收益納金ヲ加ヘテ約九割强トナル。租税及公債ニヨル收入ハ約一割（ソノ中公債ハ六割ヲ占ム）トス。

三、公債現在高約百五十億留（一九三六年一月一日）ソノ中百〇五億留ハ第二次計畫期ニ屬ス。

四、通貨膨脹ハ第一次ノ終期ニ比シ一九三五年マテニ約三割五分ノ程度ニ過キス。

五、物價ハ生活必要品（六品）ノ小賣自由市場ニ於テ、約二分ノ一ニ低下（第二次ノ初期ト一九三五年三月トノ比較）但シ第一次ノ初期ニ比シテ尚ホ著シク高値ニアリ。

第二次五ヶ年計畫

ノ意義—註(1)ソレマテニ達成サレタ經濟的發展ニ基イテ、ソ聯ニオケル資本主義的要素ヲ決定的ニ清掃シ—階級ナキ社會主義社會ノ建設—勞働者及ヒ農民大衆ノ生活狀態ノ急速ナ生長—彼等ノ福祉ノ增進、彼等ノ必要及ヒ要求ヘノ配慮—ヲ目的トスル。(第二次五ヶ年計畫ハ一九三三年一月一日ヨリ一九三七年十二月卅一日ニ至ル)

ヲ遂行—斯クテ發展ノ目標トシテ、

三十万以上ノ工業企業、三十万ノ商業企業、一万ノソフホーズ、二十四万ノコルホーズ(一九三二年度ハ二十一万テアッタ)三千ノM。T。O(マシン・トラクター・ステーション)(一九三二年度ハ二千五百テアッタ)等ノ實現ヲ期シ、一二〇ノ工業部門ヲソノ計畫ニ包括シ(第一次五ヶ年計畫テハ約五〇部門)、而カモ計畫ハ各部門ニ亘リ細部ニマテ滲透スル。註(2)

重工業テハ千以上ノ對象ノ建設ヲ豫想シ、內、發電所七九、機械製造業一五一、石油業ノ建設物三五、鐵工業(平爐一三〇基、壓延機一

〇八）炭坑二五八、大鑛山三七、有色冶金業コンビナート二四、セメント工場二〇。

輕工業テハ建設計畫ハ約二百五十ノ對象ヲ包括シ、內、纖維工業一二一、皮革製靴工場七四、硝子工場一七、タンニン抽出工場一二、燐寸工場六。

木材工業テハ百五十ノ對象ヲ包攝シ、內製材工場九九、製紙工場二二、木材化學工業企業二五。

食料品工業テハ約三百企業ヲ計畫シ、內、精肉コンビナート四〇、漁業企業四九、製糖コンビナート二五、罐詰工場二七、脂肪及骨加工企業二一、油房工場一九、冷凍工場七一、酒精工場一六。

更ニコレラノ諸工業及其他ノ部門ニ亘ッテ原價引下ケニ邁進スヘク五ケ年中ニ約七百億留（ソレハ一九三二年ニ比シ、全國民經濟ニオイテ三〇%方ノ引下ケ）ノ節約ヲ果サントスルモノテアリ、工業テハ二三%、消費組合工業テハ一九%、運輸業テハ四〇%、商業テハ二六%

建築テハ四%、ソフホーズ人民委員部テハ六二%方ノ引下ヲ企圖スル。

コノ原價引下ケハ(一)勞働ノ生產性ノ向上、(二)材料物資ノ利用改善、(三)諸雜費ノ節約、ニヨツテ行ハレル。例ヘハ工業ニオケル原價引下ケ二六%ノウチ、ソノ構成分子ハ次ノ如ク豫定サレル。

(A)勞働生產性ノ向上カ、勞銀ノ引上ケ以上ニ上ルコトカラ來ル節約……一一。三%
(B)原料ノ利用ニ基ク節約……七。〇
(C)燃料及ヒ電力ノ節約……一。七
(D)雜費ノ節約……六。〇

第二次五ケ年計畫ハ他方、全國ニ亘ル工業ノ均等ナル配分及ヒ發展（故ニ極東方面ノ充實）、原料產地ヘノ生產ノ接近、國防力ノ强化ヲ計ル。

然ラハコレラノ遂行計畫カ果シテ如何ナル程度ニ行ハレテキルカ。

工業ニツイテハ、一九三五年度テハ、ソ聯全工業ノ總生產高ハ、六百五十九億留ニ上リ、コレハ計畫ノ一九三五年度ノ課題ノ一〇七%ノ

超過遂行ヲ意味スル。而シテ一九三五年度ノ年次計畫ニオイテ超過遂行シタ各工業ニツイテ言ヘハ、重工業人民委員部テハ六〇.九%、林業人民委員部テハ二〇.六%、食料品工業人民委員部テハ一一.〇四%、輕工業人民委員部テハ二%ノ各超過トナッテキル。註(3)

註(4)一九三五年ノ後半期ノ初頭ニオイテ、工業生産ノ大キサハ、一九二八年ノソレノ三倍半ニモナッテキル。大工業ノ總生産ニ占ムル機械製(マシネンバウ)造ノ割合ハ、一九一三年ニハ六.〇八%テアッタカ、一九二九年ニハ一一.〇二%トナリ、一九三五年ノ始メニハ二二.二%ニマテ上ッタ。コノ高サハ第二次五ケ年計畫ノ終リニ到達スヘキモノタッタ。

工業ノ電化テハ、ソ聯ハ一九三三年ニハ獨、英、佛ヲ凌駕シ、殆ト米國ノ指標ニ到達セントシタ。(米―七〇.六、ソ聯―七六.〇二)。炭礦業ノ電化テハ、ソ聯ハ既ニ米國ヲ凌駕シタ。工業ヘノ配電ノ集中化テハソ聯ハ列國ノ先頭ニアリ。即チ工業企業ヘノ一般的電流供給ニオイテ、外部カラ受入レル電力ノ割合ハ、ソ聯テハ一九三三年ニ七七

。四％テアリ、米國テハ一九二九年ニ六六。七％テアッテ、其他ノ諸國ニオイテハ遙カニ少イ。

機械化セラレタ炭礦業ノ百分率（ドンバス（Donbass）炭田ニオケル）ハ、一九一三年ノ〇。五％及ビ一九二八年ノ一九。四％カラ、一九三四年ノ七九。一％及ビ一九三五年六月ノ八一。八％ニ上ッタ。炭礦業ノ機械化テハソ聯ハ英ヲ凌駕シ、米、佛ト同シ段階ニ立ツ。

製鐵業ニオイテハ重要ナル結果カ得ラレタ。熔鑛爐ノ有効容積註(5)ノ利用係數ハ根本的ニ改善セラレ、シカモ一九三三年ノ一。六九カラ一九三五年六月ノ一。一五トナッタ。コレハ製鐵業全体ノ平均係數テアルカ、個々ノ冶金工場テハ著シク良好ナ指標ヲ呈示シテヰルモノモアル。例ヘハ「マケエフカ」（Makejewka）テハ、一九三五年三月ニ〇。九、八、七月ニ〇。八六ニ達シタ。アメリカノ冶金工場ノ最善ノ指標ハ〇。八八テアリ、ドイツノソレハ〇。六九テアル。

最近ノ年次計畫遂行狀態ヲ見ルニ、一九三六年一月ヨリ九月マテノ

重工業諸部門ノ成績ヲ、ソノ順位ニ從ツテ示セハ次ノ如クデアル。（註(6)
因ミニ一月カラ九月マデノ期間ハ、一年ノ七四・九%ニ相當スル）：

部門別	一—九月中年計畫遂行率(%)	前年同期比較增(%)
トラクター	八九・五	六〇・八
コークス	七五・八	一九・八
鋼塊	七四・五	三二・〇
電力	七四・四	三七・五
鋼材	七四・五	三六・一
銑鐵	七四・一	一六・七
鐵鑛	七三・四	四・九
石油	七二・三	一〇・六
工作機械	七〇・五	二七・一
石炭	六九・二	二九・九

粗鋼	六四・七	二八・二
コンバイン	六一・二	九四・二
貨物自動車	六〇・〇	五七・六

右ノ如キ豫定計畫ノ超過遂行乃至ハ遲滯防止、モシクハ原價引下ケ及ヒ企業ノ收益性ノ增進ノタメニ、ソ聯當局ハ一九三五年ノ後半以來謂ハユルスタハノフ註(7)運動（Stachanow-Bewegung）ヲ勸奬シツツアル。コレハカツテノ「社會主義競爭」又ハ「突擊隊運動」ノ變型テアリ、ソノ目的トスルトコロハ、勞働ノ生產性ノ向上ニヨリ收益性ノ增進乃至ハ生產性ノ增大ヲ計ルニアル。コレハ素ヨリ勞銀ノ引上ケ及ヒ技術的諸條件ノ改善ニ俟ツトコロテアルカ、特ニ遂行率ノ不良ナル產業部門ニオイテ唱道サレテヰルトコロカラ見レハ、計畫齟齬ニ對スル張壓的手段トモ解サレヨウ。

今ソ聯工業ノ一九三六年十一月ニオケル日產能力ヲ擧ケンニ。註(8)

電力	六六〇〇〇千KW
石炭	三五〇〇千瓩
石油	八九〇〃
骸炭	五三五〃
鐵鑛石	八三五〃
銑鐵	五九五〃
鋼鐵	四八八〃
壓延鋼	五七五〃

又第一次並ニ第二次五ケ年計畫ニオケル重工業生産ノ增加ヲ表示スレハ次ノ如クテアル。（第一次五ケ年計畫ノ分ハ實績）— 次頁參照。

ソ聯重工業品生産増加表

品種	單位	第一次五ケ年計畫 一九二八年	第一次五ケ年計畫 一九三二年	第二次五ケ年計畫 一九三二年	第二次五ケ年計畫 一九三六年
銑鐵	百万瓲	三、三七	六、一六	六、一六	一四、五
鋼鐵	〃	四、二五	五、九五	五、九五	一六、〇
壓延鋼	〃	三、四〇	四、二九	四、二九	一三、二
銅	千瓲	三〇、〇一	四四、九八	四四、九八	一一〇、〇
アルミニウム	〃	―	〇、八五	〇、八五	三七、〇
自動車	千台	〇、七〇	二三、八八	二三、八八	一六一、五
トラクター	〃	一、二七	五〇、六四	五〇、六四	九六、二
機關車	台	―	八二八	八二八	一、九〇〇
貨客車	千台	―	二三、三	二三、三	九〇、〇
化學製品	百万留	四六、六	一、四九七一	一、四九七一	三、二三六〇
石炭	百万瓲	三五、七	六四、三三	六四、三三	一五五、〇

石油	百万瓲	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

註(1) Thesen zum zweiten Fünfjahresplan. Zu dem Bericht Molotows und Kujbyschews auf der XVII. Konferenz der KPSU. SS. 7-8. (Sowjetwirtschaft und Autzenhandel 11. Jg. Nr. 2/3. 1932) ヨリ。

(2) ツエ・ガリペリン、第二次五ケ年計畫作製ノ經驗カラ、（世界政策經濟情報、第一〇輯、一九三六、PP. 147-204）

(3) ツエ・ガリペリン、前掲書 PP. 194-195

(4) Von F. L., Die erste Hälfte des zweiten Planjahrfünfts. SS. 4-6. (Sowjetwirtschaft und Autzenhandel, Nr. 18. 14. Jg.)

(5) 利用係數（一晝夜ニ銑鐵一瓲ヲ生産スルニ要シタ熔鑛爐ノ容積。單位、立方米）ハ一九三六年八月テハ、一〇一一テ、九月ニハ

更ニ一〇〇％ニ進ンタ。—ソ聯邦重工業ノ近況（ザ。インダストリアリザツイユ、一〇月一五日號、列國政策彙報、第一三號昭和一一、一一ヨリ）（P. 63）

(6) 同彙報、P. 66-67

(7) スタハノフ運動トソノ意義ニ關シテハ、Sowjetwirtschaft und Autzenhandel. Nr. 23. 14. Jg. 1935. ニ詳記アリ。

(8) ソ聯重工業ノ飛躍ト軍備擴張、P46 ヨリ國際經濟週報第一八卷第一號、昭和一二、一、一）

(9) 同週報、PP. 45-46 ヨリ。

二、資金

先ツ最近年ノ國家豫算ヲ見ルニ、ソノ歳出項目中、重工業其他ニ關スルモノハ次ノ如クテアル。註(10)

(單位千留)

費目	一九三四年度	一九三五年度
國民經濟費總計	三六三八六三六四	三六一三六八九一
ソノ内 重工業費	一二三六〇八三〇	一二七三八四〇〇
輕工業費	二一三七七六〇	二一七六二〇〇
木材工業費	九三七三三〇	九三二九〇〇
食料品工業費	六三六七三〇	二〇二二〇〇〇
歳出總計	四七三〇八四一六	六六四〇〇五五一

即チ重工業費ノ國民經濟費全体ニオイテ占ムル割合ハ、一九三四年度及ヒ一九三五年度ニオイテ、ソレゾレ三四.〇一%及ヒ三五.〇五%トナツテキル。

轉シテ歳入豫算ヲ見ルニ、

(單位千留)

項目	一九三四年度	一九三五年度
社會化經濟收入總計	四二一二三二一二	五七〇六〇二五一
ソノ内 取引税（商品流通税）	三五五二七七九〇	五二〇二三七〇〇
社會化經濟ノ收益中國庫納金	四四五八四二〇	二七二三七四一
國民資金動員總計	六五二六〇五〇	五七三二七三〇
ソノ内 公債	三八八〇〇〇〇	三五五〇〇〇〇
諸税	二六四六〇五〇	二一八二七三〇
歳入總計	四八八七九四一六	六二九〇〇三三一

即チ一九三四年度ニオイテハ、歳入總額ニ對シ、取引税收入ハ七二。六%、一九三五年度ノソレハ七八。〇九%テアツテ、壓倒的意義ヲモツテキルノテアリ、國民資金動員ハ一九三四年度テハ歳入總額ニ對シ

一二・〇四%、一九三五年度デハ八・七%トナッテキル。註(11)

ソ聯ノ公債ハ逐年增大シツヽアルカ、イマソノ概略ヲ示セハ、註(12)(13)

	種別	發行年月日	發行額（百万留）	一九三六年一月一日未償還額（百万留）	利率(%)
1	第三回工業化公債	一九二九年七月二四日	八二九	五七九、七	一〇
2	五ケ年計畫四ケ年遂行公債	一九三〇年七月一〇日	一、五一八	一、〇九一、八	一〇
3	五ケ年計畫第三年度公債	一九三一年六月九日	一、九五四	一、五〇八、四	一〇
4	五ケ年計畫第四年度公債	一九三二年六月八日	二、七一八	二、五〇八、二	一〇
5	第二次五ケ年計畫第一年度公債	一九三三年五月一四日	三、〇七六	二、八四九、八	一〇
6	第二次五ケ年計畫第二年度公債	一九三四年六月一四日	三、四〇二	三、二七一、二	一〇

7	第二次五ケ年計畫第三年度公債	一九三三年三月四日	三九六〇	三〇八六九	八

（コノ外、第一回―一九二七年ノ二〇〇百万留―及ヒ第二回―四九八八百万留―工業化公債ト、農民經濟强化公債トカ合計四百二十万留殘ツテキル。）

以上ノ如ク一九三六年一月一日現在ノ未償還額ヲ合計スレハ、ソノ總額ハ百十七億留トナル。

而シテ(註14)一九三六年九月ニハ四十億留ノ新規公債カ發行セラレタノテアルカ、注目スヘキハソノ利率カ年利四分テアルコト、期限カ二十年テアルコトテアル。從來ハ一割乃至八分利付テ、期限ハ十年テアツタ。ソ聯政府ハ一九三六年七月一日ニ、現存一切ノ公債ノ低利借換ニ關スル決定ヲ公ケニシタ。即チコレニヨツテソ聯ニハ四分利付、二十年期限ノ公債ノミカ存スルコトトナリ、又從來ノ公債額面ハ、五留

十五留、二十留トイフ小額ノモノカ大部分ヲ占メテキタノヲ、百留ヲ最低トシテ、二百留、三百留、五百留ノ四種ニ統一シタ。尚ホコノ借換ニヨリ政府ノ負擔ハ、利拂ヒダケテモ年約十億留ノ輕減トナル。註(15)

コレラノ公債カ工業投資ニ如何ナル役割ヲ演スルカニツイテハ、次ノ如キ事實ヲ擧ケウル。即チ、一九三二年度ニオイテハ、公債及ヒ貯蓄銀行預金ニヨリ、工業投資額ノ二二%カ支辨サレ、一九三三年度ニオイテハ二〇%モ支辨サレタノテアル。註(16)

一九三六年四月一日以降、重工業及ヒ林業（石炭業、泥炭業、採鑛業、製鐵業及ヒ有色冶金業、若干ノ化學工業、若干ノ機械工業、セメント工業、製材業）ニ對スル註(17)國庫補助金カ廢止セラレタ。從來ハ生産原價ノ昂騰ニモ拘ラス卸賣價格カ据置カレテキタ、メ、例ヘハ一九三五年ニハ石炭一噸當リ十留三十二哥、銑鐵一噸當リ二十留二十六哥ノ國庫補助金カ計上セラレテキタ。然ルニ原價ハ一九三四年ヲ頂上トシテ低下シ始メ、一九三五年ニハスタハノフ運動ノ勃興ニヨリ更ニ低下

スル傾向トナツタ。コヽニオイテ更ニ卸賣價格ノ引下ケ工作ヲ加味シ各企業ヲシテ國庫ノ補助ヲ必要トシナイ程度ノ採算的基礎ノ上ニ立脚スルニ至ラシメタ。

註(10) Sowjetwirtschaft und Autzenhandel. Nr. 5. 13.Jg. 1934. SS. 30-33. 及ヒ「資源」第五卷、第七號、昭和一〇、七、PP. 101-106 ニヨリ作成。

● 特別商品基金（Besondere Warenfonds）六三億留ヲ含ム。

●● 前年度ニ比シ減少セルハ、多額ノ收益カ將來ノ發展ノタメニ國營企業ニ留保サレルタメデアル。

(11) Sowjetwirtschaft u. Auts. Nr. 5. 13. Jg. 1934. S.32

(12) 列國政策彙報、第一〇號（昭和一一、八）、PP. 61-62 ヨリ（ソ聯ノ金利引下ケト低利公債ノ發行）。

(13) Sowjetwirtschaft u. Auts. Nr. 6/7. 13. Jg 1934. SS. 54-56, Die innere Anleihe des zweiten Fünfjahresplans. ニモ

同様ノ計數カ出テ居リ、又詳細ナル記事カアル。

(14) 前掲、列國政策彙報、PP. 57-61

(15) 前掲、列國政策彙報、P. 62

(16) Sowjetwirtschaft u. Auts. Nr. 6/7. 13. Jg. 1934. S. 55

(17) 列國政策彙報、第八號（昭和一一、六）PP. 46-52

四 通貨ト物價　（單位十億留）　註(18)

主要項目	一九三三年	一九三四年	一九三五年	同上前年比較(%)
國民所得（一九二六—二七年ノ價格ニテ）	四八三	五五八	六五七	一一七八
小賣取引高	四九八	六一八	八〇五	一三〇三
貯銀基金	—	四四〇	五六三	一二八〇
農產物買上高	—	五一	九一	一七八六
國立銀行現金收支	九六六	一一八八	一六五〇	一三七二
年平均紙幣發行現在高	—	七二	八六	一一八八

右ニ見ラル、如ク紙幣發行現在高ノ増加比率ハ、商品流通ノ増大、貨銀基金及ヒ國立銀行現金取扱高ノ増加ノ各比率ヨリモ小テアル。コノ事實ハ一九三四年ニ比シテ貨幣ノ經濟的利用ノ増大、ソノ回轉ノ急速化ヲ示ス。更ニ次表ハルーブルノ作用ノ増強、國民經濟ニオケルソノ回轉率ノ増大ヲ示シ、貨幣經濟カ堅實ナル地歩ヲ占メツツアルコトヲ示唆スル。

（單位十億留）

要項	一九三四年	一九三五年
國立銀行現金受入高	五八・八	八〇・六
年平均紙幣發行現在高	七・二	八・六
國立銀行ヘノ貨幣歸還ノ速度（回數）	八・一	九・三
同上前年比較増（%）	―	一五・〇

大規模工業カ財政上ノ獨立ヲ得、紙幣ノ大ナル増發ヲ要シナクナツタト同時ニ、ソ聯ノ産金業カ目醒マシイ發展ヲ遂ケタ結果、紙幣發行

ノ正貨準備カ著増シタ。產金高ハ一九三五年ニハ四億弗ニ達シ、二年間ニ四倍ノ増加ヲ示シタ。ノミナラス外國貿易ハ受取超過ニナツテヰルカラ、金ノ新ナ増產分ヲ貿易ニ費消スル必要ナク、國立銀行ノ金準備ニ加ヘ得ル。一九三五年ノ夏、國立銀行（註(19)ノ2）ノ金準備ハホヾ九億弗ニ達シテヰタ。註(19)（一九三五年ニハソ聯ハ五百六十五万オンスノ金ヲ產出シタ。）

次ニ物價ノ狀態ヲ見ルニ、國營商業機關ノ食料生產物ノ價格ハ次表ノ如クテアル。註(20)

（一瓩當リ留）

品目	一九三四年末	一九三五年末	低下率(%)
挽割麥	五〇〇	二二五	五五。〇
小麥	二〇〇	一一〇	四五。〇
動物性油脂	二八八七	一六七一	四二。一
砂糖	六九七	四一五	四〇。五
菓子	一一〇〇	五五〇	五〇。〇

市場價格モ一般ニ低落シタ。食料品ノ市場價格ハ一九三五年中ニ二三—三〇%ノ低下ヲ見タ。國民經濟中央計算局ノ調査資料ニヨレハ、市場價格ノ低落テンポハ次ノ如クテアル。（前年末ニ比シテ%）

品目	一九三四年	一九三五年
牛肉	一七・六	三四・二
クリーム	二八・一	三二・三
鶏卵	一八・七	二三・七
馬鈴薯	三四・八	七九・四

第二次五ケ年計畫ニオイテ、コルホーズ市場ノ農産物ノ價格ヲ、一九三二年ニ比シ、三分ノ一乃至四分ノ一ニ低下セシメル豫定テアツタ。一九三五年末ニオケルコルホーズ市場ノ價格ハ、一九三三年第一四半期ニ比シ、三分ノ一ニ低下シテキル。從ツテ豫定ハ殆ント遂行サレタワケテアル。今後ハ超過遂行ヲ見ルテアラウ。

更ニ第二次五ヶ年計畫期ニオケル小賣物價ニ關スルイマ一ツノ統計ヲ見ルニ、註(21)

第二次五ヶ年計畫時代小賣物價

品目	一九三三年	一九三四、一、一	一九三四、一二、一	一九三五、三、一
パン	一〇〇	七〇	七〇	四四
バタ	一〇〇	七二	六二	六二
馬鈴薯	一〇〇	六二	六二	六二
砂糖	一〇〇	一〇〇	四九	四八
織物	一〇〇	一〇〇	八四	八四
絲	一〇〇	三六	三九	三九
エー。ハイマン「統一價格」經濟問題誌、一九三五、三ヨリ				

即チ一九三三年ヲ一〇〇トシテ、一九三五年三月一日ノ六商品平均ハ五五ヲ示ス。コノ故ニ第二次五ヶ年計畫下ニオイテ物價カ一般的ニ

下落シタコトハ疑ヒヲ容レヌ。併シ乍ラ未タ、一九二八年ニ比スレハ註(22)著シク高イノテアル。

註(18)列國政策彙報、第八號（昭和一一、六）—（一九三五年ニ於ケル信用ト貨幣流通）PP. 66-69

(19)列國政策彙報、第四號（昭和一一、二）（ソ聯經濟ノ成功、Edgar s. Furniss氏稿）P. 41

(19)ノ2）日本經濟年報、第二五輯、P. 103

(20)前掲、列國政策彙報、第八號、PP. 68-69

(21)日本經濟年報、第二五輯（昭和一一年第二四半期）PP. 129-130

(22)本案「第一次五ケ年計畫、、、」P. 17參照ノコト。

七、外國貿易—第二次五ケ年計畫期ニオケル貿易ハ如何ト見ルニ、註(23)（參考ノタメ第一次五ケ年計畫ノ最終年、一九三二年ヲモ含マシム）

年度	輸出	輸入	合計	出(+)入(-)超
	千留	千留	千留	千留
一九三二	五七四九二八	七〇四〇四〇	一、二七八九六八	(-)一二九一一二
一九三三	四九四八七五	三四八二一六	八四三〇八九	(+)一四六六五七
一九三四	四一八五四五	二五三四二六	六五〇七七一	(+)一八五九一九
一九三五	五六七四一一	二四七五七四	六〇八七八五	(+)一二六〇五七

右ノ如ク第一年度タル一九三三年ヨリ出超ヲ續ケ、堅實ナ受取超過ヲ示シテヰル。併シ乍ラ注目スヘキハ貿易額ノ漸減傾向テアル。コノ傾向ハ既ニ一九三一年度ヨリ現ハレ（一九三〇年度ハ、増大ノ頂點ニ立ツテヰタ）テヰルカ、イマソレヲ示セハ次ノ如クテアル。註(24)

年別	貿易額	前年トノ比較減少率
	百万留	%
一九三〇	二、〇九五二	—
一九三一	一、九一六二	八・六

一九三二	一二七八九	三三・四
一九三三	八四三〇	三四・〇
一九三四	六五〇七	二三・〇
一九三五	六〇八八	六・四

更ニコレヲ輸出額及ヒ輸入額ニツイテ見レハ、

年別	輸出額 百万留	前年トノ比較増減率 %	輸入額 百万留	前年トノ比較増減率 %
一九三〇	一〇三六四	―	一〇五八八	―
一九三一	八一一二	(-)二二	一一〇五〇	(+)四
一九三二	五七四九	(-)二九	七〇四〇	(-)三七
一九三三	四九四八	(-)一四	三四八二	(-)五一
一九三四	四一八五	(-)一六	二三二四	(-)三一
一九三五	三六七四	(-)一二	二四一四	(+)四

卽チ輸入ノ增減率ハ不規則ニ動搖シテキルカ、輸出ノソレハ大体ニオイテ、規則的ナ減少ヲ呈シテキル。更ニ我々ハ一層興味深キ統計ヲ左記ニ見ル。コレハ卽チソ聯ノ貿易構成ニオケル變化ノ跡ヲ辿ルコトニ外ナラヌ。註(25)

輸出	一九〇九—一三	一九二三—二四	一九二九	一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三四
總輸出	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
工産物輸出	三〇・〇	三七・四	六一・一	五八・二	五七・八	六八・一	七一・一	七三・七
農産物輸出	七〇・〇	六二・六	三八・九	四一・八	四二・二	三一・九	二八・九	二六・三

右ニ見ラレル如ク、一九三三年度ニオイテ、工業生産物及ヒ農業生産物ノ輸出總額ニオケル割合ハ、完全ニ世界大戰前ノ地位ヲ轉換シテシマツタノテアル。更ニ輸出商品ノ加工程度ニ從ツテ、ソノ構成ヲ檢スレハ次ノ如クテアル。

加工程度	一九二九	一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三四
總輸出	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
未加工品	四二・九	四九・四	四四・六	三四・二	三三・〇	三三・〇
半製品	七・一	六・〇	七・二	九・五	一一・八	一一・五
完製品	五〇・〇	四四・六	四八・二	五六・三	五五・二	五五・五

コ、テモ半製品及ヒ完製品ノ占ムル割合カ増加シテキル。又工業ノ主要部門別ノ輸出構成ヲ表示スレハ、

部門別	一九〇九〜一三	一九二九	一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三四
總輸出	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
重工業ニヨル生産原料及ヒ生産品	五・五	二四・〇	二二・五	二三・〇	二六・三	二四・六	二六・九
軽工業ニヨル生産原料及ヒ生産品	一〇・九	二三・〇	一六・二	一六・四	二一・六	二〇・二	二〇・〇

木材工業ニヨル産出原料及ヒ生産品	九・八	一六・五	一六・四	一四・四	一四・〇	一五・五	二一・五
食料品	五二・〇	一四・五	二七・八	三〇・九	一九・〇	一六・〇	一二・六
其ノ他ノ商品	二三・〇	二二・〇	一七・二	一六・七	一九・〇	二三・七	一九・二

右表ニヨリ主要工業部門關係ノ生産物カ、大戰前ニ比シ、總輸出ニ占ムルソノ割合ヲ、著シク增大シテキルコトカ、知ラレルト共ニ穀物其他ヨリ成ル食料品ノ輸出カソノ比率ヲ減シ、殊ニ一九三二年以降ニオイテ著シイコトヲ知ル。

轉シテ輸入構成ノ變遷ヲ見ヨウ。註(26)

部類別	一九〇九―一三	一九二九	一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三四
總輸入	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
原料及ヒ食料品類	二七・五	三三・四	一七・七	一三・五	一二・〇	一八・一	二八・八
金屬及同製品類	四・九	一三・九	一七・六	二四・〇	二一・四	二八・〇	二七・〇
機械器具、トラクター、自動車、船舶類	一四・六	二八・五	四四・〇	五〇・〇	五二・八	四一・五	二四・〇
其ノ他ノ輸入	五二・九	二四・二	二〇・七	一二・六	一三・八	一二・〇	一九・二

一九三四年度ノ輸入ニオイテ特ニ目立ツモノハ、機械器具類ノ比率ノ激減デアル。ソ聯カコノ分野ニオイテ、急テンポヲ以テ自立シツツアル事實ヲ裏付ケルテアラウ。他方ニオイテ原料及ヒ食料品類ノ比率増加モ注目ニ値スル。

次ニ最近ノ貿易狀態ニ關スル若干ノ調査ヲ掲ケヨウ。註(27)

	一九三五年(一—一〇月)	一九三六年(一—一〇月)
總貿易額	三、一七五八九二千留	三、二三九二九〇千留
輸出	二、三一〇一一〇	一、一二八九三七
輸入	八六五七八二	二、一一〇三五三
出、入超	(+)一、四四四三二八	(-)九八一四一六

斯ノ如ク一九三六年(一—一〇月)ノ貿易尻ハ入超ヲ示シ、一九三三年以來ノ出超繼續ハ、ココニ異變ヲ呈スル。更ニ貿易構成ヲ觀察シヨウ。

商品別	一九三五年(一—一〇月)	比率	一九三六年(一—一〇月)	比率
總輸出	二、三一〇一一〇千留	一〇〇・〇%	一、一二八九三七千留	一〇〇・〇%
ソノ内 農産品	三二四五九四	二四・八	二二九〇七四	二〇・三
工産品	九八五五一七	七五・二	八九九八六三	七九・七

商品別	輸出 一九三五年（一—一〇月）千留	比率 %	一九三六年（一—一〇月）千留	比率 %	兩年比較增減 %	輸入 一九三五年（一—一〇月）千留	比率 %	一九三六年（一—一〇月）千留	比率 %	兩年比較增減 %
總額	一三一〇一一〇	一〇〇・〇	一一二八九三七	一〇〇・〇	(−)一三・八	八六三七八二	一〇〇・〇	一一三〇三五五	一〇〇・〇	(＋)三〇・五
生畜獸	一四〇	〇・〇	三九	〇・〇	(−)七・九	二九三六五	三・四	三九四三七	三・五	(＋)三四・八
食料品	二二七〇一一	一七・三	一四一二八八	一二・五	(−)三七・八	七五六六〇	八・七	七〇四六五	六・二	(−)六・九
原料及半製品	八二六三六三	六三・一	七七七五七〇	六八・九	(−)五・九	三八五三六五	四四・五	三八九三八九	三四・五	(＋)一・一
完製品	二五六三九六	一九・六	二〇九九五〇	一八・六	(−)一八・〇	三七五四九四	四三・四	六三〇八六四	五五・八	(＋)六八・〇

總輸入	八六三七八二	一〇〇・〇	一一三〇三五五	一〇〇・〇
ソノ内 生產手段	七五八三〇九	八七・六	一〇一七五一四	九〇・〇
消費資料	一〇七四七三	一二・四	一一三八三九	一〇・〇

右兩表ニオイテ農產品乃至ハ食料品ノ輸出ハ減退シ、生產手段乃至ハ完製品ノ輸入カ增加シテキル。ソレト同時ニ工產品乃至ハ完製品ノ輸出カ、アマリ振ハナイノヲ注意スヘキテアラウ。

註(23)國別ノ貿易狀態ヲ見ルニ、一九三五年ノ輸出テハ、英、獨、米ノ順位、又輸入テハ英、米、イラン（伊蘭）、獨ノ順位ニアリ、一九三六年（一—一〇月）ノ輸出テハ、英、米、獨、輸入テハ獨、米、英、イランノ順位ニアル。輸入ニオケル獨逸ノ地位ノ躍進ハ、一九三六年ニオケルソ聯ノ生產手段乃至ハ完製品ノ輸入ノ增大ト關聯ジテ、注目スヘキテアラウ。

尚ホソ聯外國貿易當面ノ最重要任務ハ次ノ如キモノトサレル。註(23)1.外貨準備ノ蓄積。2.ソヴエト經濟ノ一層ノ技術的改造ニ對スル積極的協力。3.近年外國貿易機關カ維持シ來ツタ原料、半製品及ヒ機械裝置ノ輸入ニ對スル嚴格ナル方針ヲ依然繼續スルコト。4.若干ノ資本主義諸國カ我國ニ提供シタ長期財政クレヂットヲハ、ソヴエト經濟ニ物

ノ資ヲ吸引スルタメニ利用シ、カクテ第二次及ヒ第三次五ケ年計畫ノ實現ノテンポヲ促進スルコト。5.ソヴエト政府ノ遂行セル平和政策ニ積極的ニ協力スルコト。

註(23) 外務省通商局、海外經濟事情（昭和一一年、第八號） P. 157
以下ニヨル。

(24) 上掲、海外經濟事情（昭和一一年、第二二號） P. 360

(25) Sowjetwirtschaft und Autzenhandel, Nr. 12. 14. Jg. 2. Juniheft. 1935. Berlin. SS. 4-13 (Wandlungen in der Stuktur des sowjetischen Autznhandels im zweiten Planjahrfünft.) (Von D. Mischustin)

(26) Sowjetswirtschaft u. Autz. a. a. O. S. 6

(27) Sowjetw. u. Autz. Nr. 23/24. 15. Jg. 1. u. 2 Dezemberheft. 1936. Berlin, SS. 29-32

(28) Sowjetw. u. Autz. Nr. 23/24. 15. Jg. a. a. O. S. 32

註(20) ソ聯邦外國貿易今後ノ方針（外國貿易人民委員、ローゼンゴリツ氏演説内容、一九三六、七、二七日、プラウダ紙一邦譯、列國政策彙報、第一一號、昭和一一、九、PP. 40-49）

—以　上—

昭和十二年二月

ソ聯邦國家計画委員會研究資料

日満財政經濟研究會

目次

一、序文……一
二、ソ聯邦の經濟体制……六
三、國家計画委員會の構造……一六
四、計画作成の順序……二〇
五、長期計画と短期計画……二六
六、計画化の進展と複雑化……三〇
七、計画經濟下にあるソ聯邦經濟事情……三三
八、結語……四一

序　文

ソ聯邦の最大の特色が、政治的にはプロレタリヤ獨裁、經濟的には計画經濟によつて代表されてゐることは周知の通りである。而してソ聯邦は如何なる手段によつてその全國民經濟を指導してゐるかといふに、それは第一に、主として計画經濟の助けによつてである。經濟計画はソ聯邦における全國民經濟の指導の決定的な有力なる武器である。この計画によつてソ聯邦は國民經濟の個々の部門及び個々の企業に對する生産の任務を決定する。計画のうちには社會的蓄積の大きさ、新しき工業農業その他の新しき建設の希望が規定されてゐる。

而してソ聯邦の計画經濟は全社會的經濟生活の根本的改造を、換言すれば社會主義社會の建設を目標とする諸方策を体系づけたものである。經濟方面においては、計画は一切の生産部門、交換、分配、消費、國民所得、社會的蓄積、價格の決定等々を含む國民經濟の全部面に亘つてゐる。

かゝる意味の經濟の計画組織の實現は、土地や交通機関等の社會化が行はれ、銀行組織が國家の掌中に收められ、一切の生産手段が國有化されたソ聯邦の如き國においてはじめて可能と云へやう。

—

ソ聯邦は自國を社會主義國家と呼び、世界もまたこれを認めてゐるが、社會主義國家とは、この計画經濟を以てその動脈となし、結成された國家の謂であり、所謂市場經濟を排除して、一切の生産、消費を嚴密な統制下に行はんとするもので、計画經濟とは社會主義經濟の別名であり、その構成内容を知ることは、ソ聯邦のメカニズムを知ることゝなるのである。

レーニンは第七回大會の席上次のやうなことを述べてゐる――「計算を組織すること、全國家的經濟機構を巨大な一個の機械に、即ち幾億の人間が一個の計画に從つて動くやうな一個の經濟的有機体に轉化すること、これこそ吾々の双肩にかゝつてゐる組織的任務である」と。またレーニンは、計画經濟を「プロレタリヤートに課せられた任務」と見、意志の統一と行動の統一を確保する規準と見た。即ち「單一の意志が必要である、あらゆる実際問題について萬人が一人の如くに行動するために必要である」。「工業にも農業にもこの意志の統一を適用する必要がある」と

而して、ソ聯邦は十月革命の成就と同時にかゝる意味の計画經濟を実施せんと目論んだ。然しながら、かやうな計画經濟が、政治革命が成功するや否や直ちに發展した形態で、忽然として出現する筈のものでないことは勿論である。反革命的諸勢力の反抗の激化するに及んで、生産と消費に一種の強制的統制を行つたとしても、それは所謂戰時共産主義の時代であり、計画經濟の武力的歪曲であつて、正しいものであり得やう筈がなかつた。

ソ聯邦が曲りなりにも計画經濟を実施し得るに至つたのは、ソ聯邦の經濟復興がその緒についた新經濟政策後のことであり、即ち勞働及び國防會議内に計画經濟の総本山としての國家計画委員會（ゴスプラン）が組織されて以來のことであつて、これに關し、ゴスプランの沿革をソ聯邦百科大辞典より訳出して見ると次の如くである。

『ソヴェト露西亜の經濟的実践の統一及び計画は最初勞働及び國防會議（ストー）に集中され、一九二一年この會議附属機関として國家計画委員會が單一經濟計画の目的を貫徹するために創設された。ソ聯邦の領土が廣範であること、その經濟的基礎が各種各樣であることにより、計画活動機関を中央に集中設置することでは事足りなくなり、地方にも計画機関を組織するの要が痛感されるに至つた。ソヴェト各共和國の同盟によりソヴェト社會主義共和國聯邦が樹立される

に及び計画活動は全聯邦計画經濟委員會と各共和國計画經濟委員會とに配分された。

即ち前者は一九二三年八月二十一日正式確認され、後者はこれとは時を異にして加盟共和國の經濟會議の附屬機関として創設された。而して一九二五年二月ロシヤ共和國の經濟委員會が最後に創設された。共和國經濟委員會の外に地方、州、自治聯合体その他縣下にも計画機関が組織された。斯様に地方の状況に應じて計画諸機関が設置され、それに伴ひ各人民委員會の諸活動に適合するやうな計画委員會――即ち農業、工業、運輸の計画委員會が造られたのである。

國家計画委員會は、農業、工業、商業その他の各分野に分れ、ゴスプラン委員會に適應するのである。ゴスプランの計画活動は主に、勞働力の陶冶、主要經濟部面への集中、全國民經濟の年度予算に基く各經濟諸分野の年度実施計画の樹立、及び國民經濟建直しを目指す五年計画を打立てることである。統制数字は一九二五―二六年度及び次年度たる一九二六―二七年度の予想計画によつて開始されたのである。

而して一九二八年十月第一次五ヶ年計画の開始にあたり、ゴスプランの重要性いよ〱加はり、この機関が中心となつて、一九二八年から一九三三年に至る五ヶ年間の歴史的大計画を立案した。

ゴスプランはこの重要性の増大に伴ひ、一九三〇年從來の如き勞働及び國防委員會の諮問機関から独立し、且つ中央統計局をも併合して人民委員部と同格のしかもその任務においてより重要な國家機関となつた。

こゝではゴスプランの沿革の他に簡単な概要が述べられてゐるが、この百科辞典の刊行後即ち一九三三年からは第二次五年計画が実施され、一九三五年四月にはゴスプランの大改組も行はれた。

而してゴスプランの機能が愈々熟し、計画經濟が現実に実施されるに至つたのは、國民經濟の復興後、更に進んでこれを社會主義的に再組織せんとする五ヶ年計画の時代に入つてからである。今年は周知の如く第二次五年計画の第五年目即ちその最終年度であるが、今やゴスプランは、國家の指令を具体的な任務と計画の技術的―生産的指標に具体化するための經濟参謀本部となり、國の經濟的、文化的発展の複雑極まる全綜合体の意識的な中央集権的指導機関となり、徃年の政府諮問機とは意味を異にするものとなつた。

ソ聯邦の經濟体制

前述の如くソ聯邦國家計画委員會は、今日ソ聯邦における經濟參謀本部として縱横の活躍振りを示してゐるが、同委員會が司るソ聯邦經濟計画の運營を圓滑ならしめる上大きな役割を演じてゐるのはソ聯邦における經濟体制である。

ソ聯邦經濟体制の發展は、社會化部面の增大と、私經濟部面の減少に要約することが出來る。然しながら同じ社會化部面にあつても、諸体制は經濟生活の進展と共に変化を來たしてゐるが、この変化は産業統制の著しい集中化の傾向と、生産の専門化と國營企業の發展に伴ふ産業管理の分散化の傾向とに要約することが出來る。

ソ聯邦經濟体制はその上層部に、勞働及び國防評議會、聯邦人民委員部、ソ聯邦國家計画委員會を有し、聯邦人民委員部には各經濟体制の夫々を代表する人民委員部がある。

今、工業、農業及び商業の諸經濟体制に関し簡單な説明を加へれば次の如くである。

「工業体制」

ソ聯邦における工場は數多くのトラストに分割され、これらトラストはまた次の方法によつて企業合同の管理下に統制されてゐる。

(一)トラストの生産品の種類、量の決定、作業の時間割の作成。
(二)トラスト及び工場間の信用の分配の管理。
(三)トラスト、職業組合間の契約賃銀の最高、最低の両限度の決定。
(四)トラストへの原料分配の統制
(五)他企業との契約締結。
(六)トラスト指導者の任命。

同時に最大限度に局部的独立性が保留されてゐる。即ちトラストは生産物の販賣購買權を有し、各工場は勞働者の雇入、解雇を企業合同に相談なしにとり決めることが出來るやうになつてゐる。

尚この他に、企業合同の管理下に置かれてゐない即ち独立のトラストも存在し、殊に最近に至つては、漸次企業合同を無くし、各企業工場の統制はトラストにのみ委られんとする傾向も見られるに至つた。

而してこれら企業合同及びトラストを直接統制するものは、その種類に從ひ

重工業、輕工業、林業の各人民委員部であつて、その關係は企業合同のトラストに對する關係と同じである。今これら三工業人民委員部の機能を示せば次の如し——。

(一)各種産業能率を統制するため週期的に工業会議の開催。

(二)企業合同、トラスト及び各工場の利益損失を配分し、價格就中一産業より他の産業への財貨の販賣を統制する。

(三)建設資本、技術の改造の規制。

(四)企業合同の理事者の任命。

(五)技術的經濟計画部を有し、工業の一般計画、統制数字の作成、工業統制、工業政策の考案、工業立法及び科學的研究を行ふ。

以上は國營工業体制の説明であるが、尚この他に多くの生産者協同組合と私營企業とがある。國營企業に屬さない大部分の小規模製造業者はこの生産者協同組合に抱轄されてゐる。これらの製造業者はその生産においては各々分裂してゐるが、原料の購入、生産物の販賣においては協同組合を形成してゐる。而してこの協同組合は、國營企業の引受けない仕事を行ふものであつて、一般國

家計画の一部を構成し、私的市場交換が許されず、國營企業と他の協同組合と取引を行ふのみであるため、國營企業との區別を非常に稀薄ならしめてゐる。

生産者協同組合に含まれてゐない小規模製造業者が所謂私營工業であるが、これは勞働者を自由に雇入れることが出來ず、この部類に屬する企業は極めて少數であり、絶へず減少し最近に至つては殆んど皆無の状態である。

「農業体制」

第一次五ヶ年計画に入つてから、その主要課題の一つである農業の集團化は著しく促進された。即ち最近の資料によれば、総播種面積の二〇・六〇%はソフホーズに、七六・六九%はマルホーズに統一され、即ち九七・二九%が集團化され、殘餘の二・七一%が個人農及びその他になつてゐる。

集團部面の增大は各共和國農務人民委員部では管理責任が激增し、一九二九年全聯邦農業人民委員部が設立されたが、ソフホーズの一層の強化発展を期し、一九三二年同人民委員部より粒穀、家畜ソフホーズ人民委員部が分離設立された。

ソフホーズ体制は國營企業体制と同似の方法を以て構成され、農場——トラ

スト――州又は共和國トラスト――ソフホーズ人民委員部である。

ソフホーズに次いでの社會化農業体系はコルホーズであつて、コルホーズの中には共同耕作組合、農業アルテリ、農業コムミューンの三種があるが、現在最も大きな割合を示してゐるのは農業アルテリである。而してコルホーズ全体としては、一九三六年初頭には全農家戸数の九〇%を包含し、ソ聯農家の大多数はコルホーズ化されたと云つても良い。コルホーズは各産業別に三〇―四〇のコルホーズ合同に統一され、コルホーズ合同は各共和國のコルホーズ・センターに、各共和國コルホーズ・センターは聯邦コルホーズ・センターに統一されてゐる。

また機械及びトラクターの共同使用を行はしめるMTSは、一九三二年の二、四四六個所から一九三五年末の四、三七六個所に増大し、そのうち七二・八%はコルホーズの仕事を援助してゐる。而してこれは、州、共和國のトラクター・センターに統一されてゐる。

「商業体制」

國内商業は、國營商業、協同組合商業の二種に分つことを得る。一九三〇年までは個人經營商業も全小賣高の五・八%を占めてゐたが、一九三三年以降その姿を完全に消し、現在では両社會化商業のみとなつた。國内商業はその最上層部に内國商業人民委員部を有し、同委員部は聯邦、共和國、地方地區に組織され、その主なる機能は、國營工業と國營農業との生産物の交換と管理、協同組合の統制である。尚一九三四年の切符制度廃止を投機の目的に利用せんとする思惑業者を取締るため、同年十月内國商業人民委員部の内に國家商業監察局が設けられ、その主要任務は、

一、商品價格及び商業機関の統制、

二、消費者に交付される商品量の監査、

三、ソ聯衛生監督局管下商業機関の統制、

四、小賣商店に對する需要者の要求調査、

外國貿易は國家の独占であつて、ソ聯工業の各部門を代表し、これら特定部門の中央機関として機能する輸入、及び輸出聯盟より成つてゐる。從つて各聯盟は幾千の企業、工場及びトラストの輸出入取引を一つの指導下に結合管理することを可能ならしめてゐる。而してこれらを統一外國貿易人民委員部であつて、その主要な機能は次の如し。

一、ゴスプランと協力して國民經濟の需要に應ずる貿易計画を樹立し、その実行を圖る。

二、直接に外國貿易遂行を許可され得る國家經濟機関に対し、監督指導を与へる。

三、輸出入限定数量制、輸出入許可制により貿易に統制を加へる。

四、輸出入品の價格規定、

五、関税徴收、

この外に、前述の組合聯盟の業務全体を夫々代表する通商代表部を諸外國に派出してゐるが、その構成は輸出入組合聯合と同様である。

「銀行体制」

銀行体制の上層部には、ゴスプランと緊密に結びついた國立中央銀行が存在し、聯邦經濟人民委員部その他と連絡をとつてゐる。

これは短期金融であるが、長期金融のためには、四つの特殊銀行を創設した。即ち工業及び電氣經濟に対する投資を「プローム・バンク」に、農業に対する投資を「フセン・バンク」に、住宅、公共施設、文化建設に対する投資を「ツェコム・バンク」に集中した。而してこの四つの特殊銀行を聯邦財務人民委員部の管理下に置き、金融体制の單一化を期してゐる。

以上はソ聯經濟体制の單なる素描に過ぎないが、ソ聯經濟計画を萬全ならしめてゐるものは企業間の契約締結である。一九二〇年當時の客観的情勢に従つて実施した計画遂行の一切の手段を嚴格に中央に集中した時代には、各經濟單位は、盲目的に計画の示すまゝに行動すれば事足りた。ところが現在のやうに計画編成を中央集権化しつゝも、その実行は自治會計制度による各經濟單位に分散されてゐるため、經濟單位相互間の自発的協力は不可欠の要件となつた。

契約は國営企業協同組合機関の商品販賣、作業実施に當り悉く締結されなければならず、その内容とするところは、一、配給数量及びその品目、二、配給期限、三、價格決濟条件及び同方法の指定、四、技術的条件、配給生産品の質の判定、五、契約違反の際支拂はるべき罰金、違反金、制裁適用の方法である。

ソ聯邦當局は契約締結問題に関し諸種の法令、命令を発布してゐるが、一九三三年度契約締結に関するソ聯人民委員會決議の中より契約義務違反、禁止事

項、紛争処理に関する条項を示すと次の如くである。

○契約面には契約義務違反の結果（罰金、違約金、損害賠償）が予定されねばならぬ。罰金、違約金の額は配給組合の重要性と罰金、違約金にて保証されたる契約による各別の義務に関聯して細分されねばならぬ。

双方は契約面に、不良品配給の結果にソ聯邦人民委員會附仲裁本部の指令を適用する旨、且つ制裁の軽減及び指令に対する不服申立、期限延長を許さゞる旨規定せねばならぬ。

購買者が一定季節内に利用するを必要とする物資の配給契約には、契約に定めたる期限に違反して発送せられた物資の引取を拒絶する購買者の権利が予定されねばならぬ。

○主要契約義務の組織的違反の場合、國家仲裁機関は契約以上に罰金を加重し得。

國家仲裁機関は、契約違反者を一九三一年二月十八日付中央執行委員會・ソ聯邦人民委員會決議に基き処罰せねばならぬ。

○契約履行の一方的拒絶及び其条件の一方的変更は絶対に禁ぜらる。但し次

の如き特別の場合は契約の破棄及び変更が許される。

A、指導上司機関の指令による時、但し契約を締結せる機関が該上司機関に直属する場合に限る。

B、労働及び國防評議會の決議による時。

C、双方が共和國或は地方的意義を有する機関、或ひは企業なる場合、聯邦加盟共和國の法律に規定せる手続を以て。

○經濟諸人民委員部及び協同組合中央部は自系統機関の契約締結並びに履行に対し実際的監視の義務がある。

○各種上司機関及び協同組合系機関相互の契約締結に際し発生する紛争の決議は凡て所属に従ひ、ソ聯邦人民委員部並びに加盟共和國自治共和國、地方又は州執行委員會附属の主、仲裁者に委任せらる、但し主裁者に対し紛争解決に付き仲裁者を指定する権利が与へらる。

○ソ聯邦人民委員部附属の國家仲裁機関に対し管下仲裁機関の事業の組織的監督、監視を強化する様提議する。

以上に述べ來つたソ聯邦における經濟生活の諸体制、並びに各企業間におけ

る契約締結問題――これらは同時にソ聯邦計画經濟の体制とも云ふことが出來るのである。何となれば、一切の生産手段の國有化、これに加ふるに強力なソヴェト政権と云ふ条件の下においては、計画の主体と客体の間に區別分離が有り得ないからである。

スターリンは「生産計画は、帰するところ数字と仕事予定表との計算に過ぎないと考へるなら、それは馬鹿げた話である。実際には、生産計画は何百万といふ人間の生々しい実践的な活動である。吾々の生産計画の真実性は新たな生活を創造する何百万といふ勤労大衆のなかにある」と述べてゐるが、総ての組織は夫々自己組織の計画を立案し、又責任を以てそれが遂行に當るのである。

而してこれら組織の立案した計画を全國化し、統一せんとするのが國家計画委員會なる專門の計画機関である。

國家計画委員會の構造

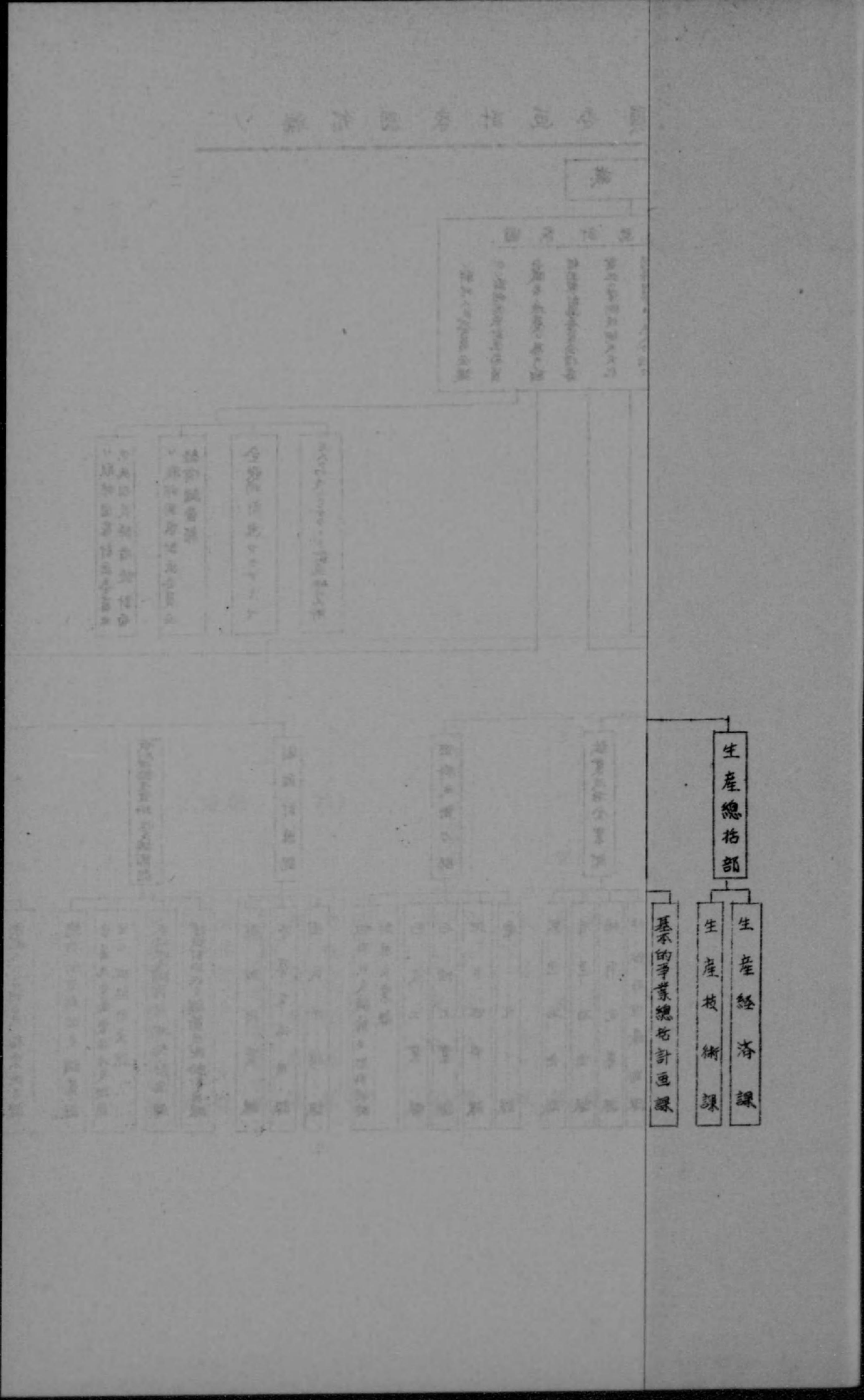
既に述べた如く、ソ聯邦における計画經濟は、横の軸としてソ聯邦計画經濟を萬全ならしめてゐる以上の如き經濟体制と、これを縦に貫く即ち縦軸として

の國家計画委員會とによつて行はれてゐるものであるが、これは同時にソ聯邦計画經濟の大きな特徴でもある。

國家計画委員會が著しく大きな役割を演じ出したことのそれ程遠い過去でないことについても既に述べたが、その後におけるソ聯邦國民經濟の顕著な発展、その農業工業その他における計画性の進展は、計画機関それ自体のその発展、進展に應ずる著しい改造を必要ならしめるに至つた。

而して遂に、その改造によつて、計画化の水準を一層高め、それに含まれた多くの欠点を除去し、計画機関に対して計画の遂行の道を示し、又計画の破綻及び歪曲を是正すべき道を示さんとし、一九三五年四月五日附聯邦中央執行委員會及び人民委員會決定として次のやうな大変改が発表されるに至つた。

今回の改正により、ゴスプランは聯邦人民委員會議が任命する七〇名の委員を以て構成され、從來の幹部會が廃されることゝなつた他、前記改正方針に基き且つ種々の從來の欠陥を除去する目的を以て、局課の分合、所屬替へその他種々の変改が行はれた。就中從來の諸局課を部及び課となし、(甲)綜合的計画立案諸部及び(乙)國民經濟諸部門計画立案部の二大別により分類し、(甲)の内には生



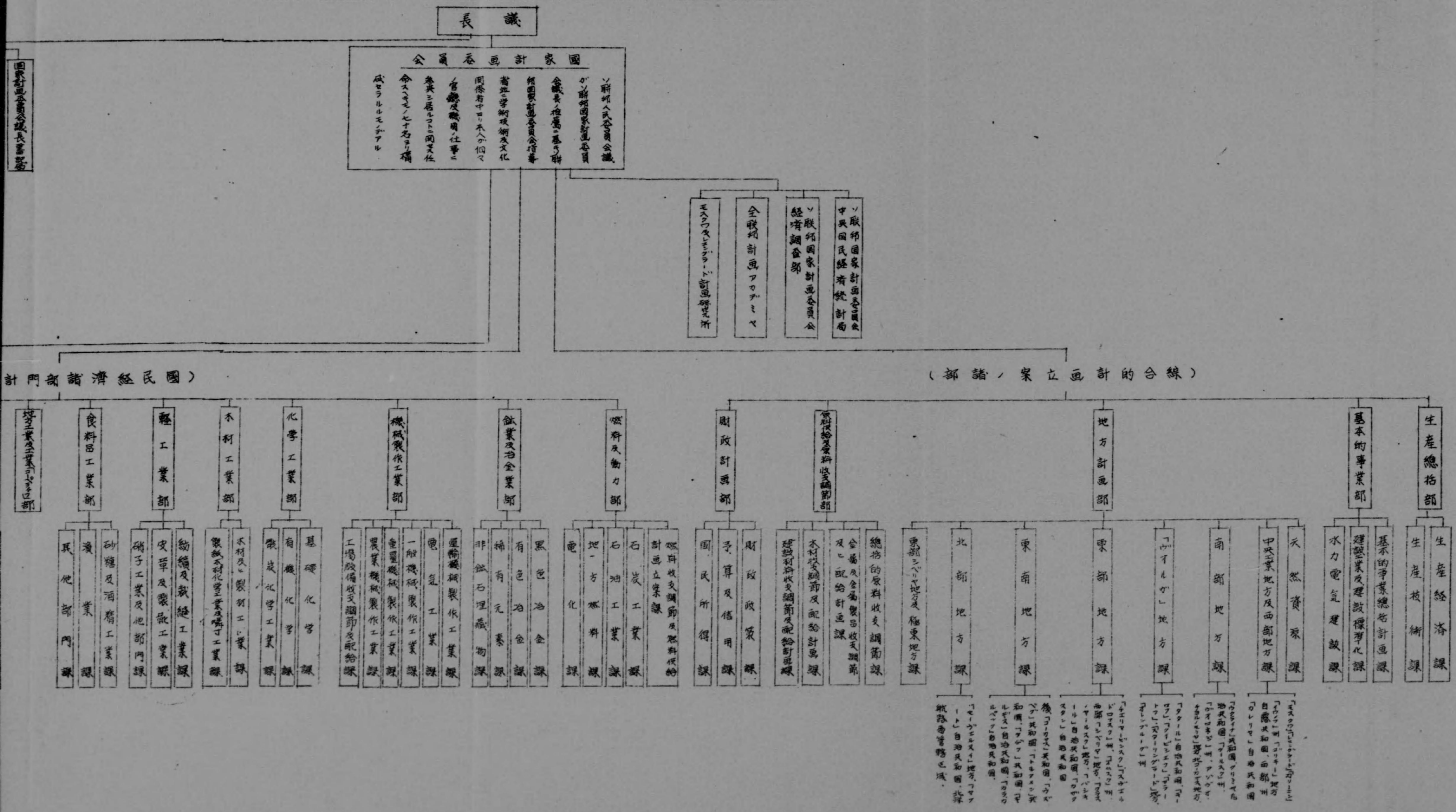
産總括部及び基本的事業部の他に新たに地方計画部を設け七課を置き各州、地方及び共和國に関する計画立案を分担せしめ、且つ原料供給及び原料收支調節部を新設し、(乙)には從來五局に分れてゐた産業別並びに交通及び文化関係の諸課を十六部（更に課に分つ）として所属せしめ、別に從來数局に分属してゐた國防、通信、幹部養成等に関する諸局課を独立の七課とし、また中央國民經濟統計局及び全聯邦計画アカデミヤ等をゴスプランの組織中に包括することゝした。

今新らしく改組されたこのゴスプランの構造を圖示すると次の如くになる。

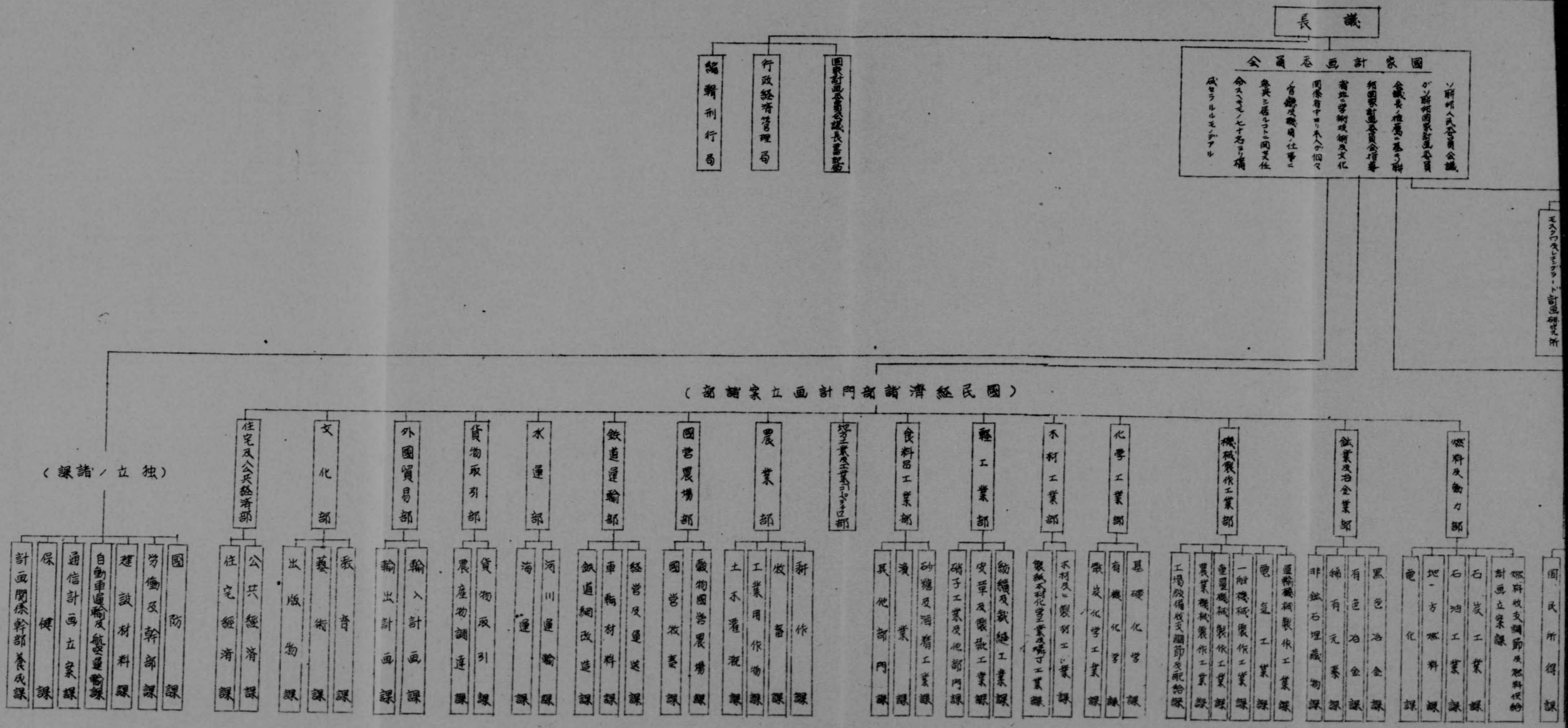
國家計画委員會は、圖表中にも示されてゐる通り、本人が個々の官廳及び機関に参与してゐるとゐないとに拘らず、ソ聯邦國家計画委員會及び地方計画委員會指導者並びに學術技術及び文化関係者中よりソ聯邦國家計画委員會議長の推薦に基きソ聯邦人民委員會議の任命する七〇名より構成されてゐる。

委員會内に綜合的計画立案の諸部と國民經濟諸部門計画立案の諸部とがある

ソ聯邦國家計画委員會機構系統圖



邦國家計画委員會機構系統圖



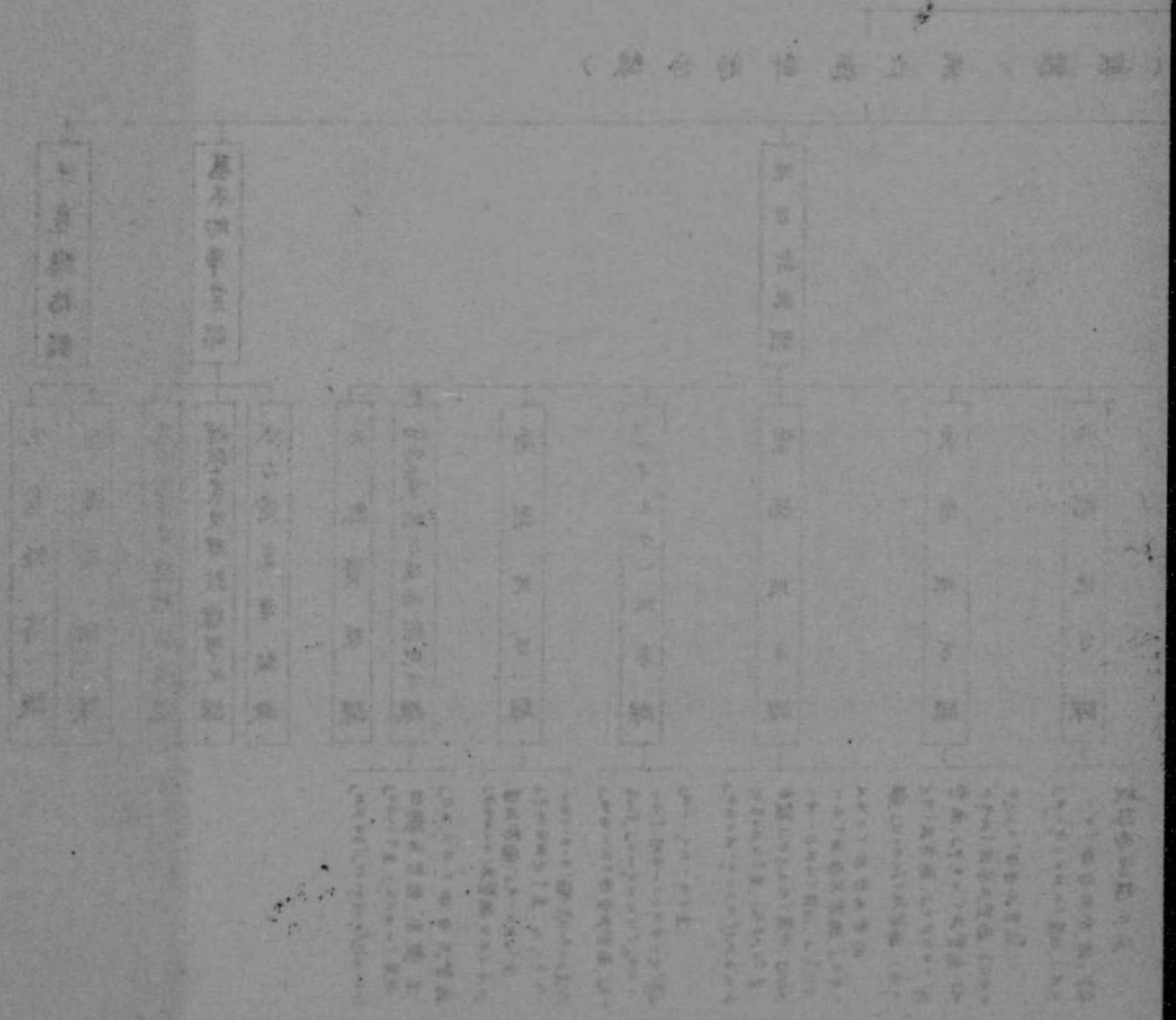
が、前者は單一國民經濟計画の各部門を立案し、右計画の遂行狀態を監視し、國民經濟の主要部門の問題及び各地方間の問題並びに計画化の方法の諸問題を綜合的に処理する部門である。而して後者は、國民經濟の個々の部門毎に計画を立て、それら部門の計画の遂行の過程を監視する部門である。

以上はソ聯邦計画經濟の首脳部としての國家計画委員會の單なる構造を示したに過ぎないが、この中には千人を超ゆる職員が働き、そのうち五百人近くは専門家によつて構成されてゐると云はれる。

而してこの計画經濟首脳部の活動を活溌ならしめてゐる下級國家計画機関の存在を忘れてはならない。

下級國家計画機関となるものは企業の計画機関である。而してこれに続いてトラスト、企業合同、地区及び各經濟人民委員部附属の計画部がある。これが所謂部局乃至部門計画化の体系をなすものである。

各企業が独立採算制を実行すると同時に、トラストや企業合同の根本任務の一つとなつたのは、これらのものが自己に所屬する各企業の活動を計画化することである。かくて指導機関と企業との經濟的結合が行はれ、部門別計画化の



責任と役割とは甚だ大きくなつてゐる。

而してこのトラスト、企業合同の作成する部門別計画を綜合するものに、各地域執行委員會所属の計画委員會があり、その上の段階は、州及び地方執行委員會と自治共和國、及び同盟共和國人民委員會議に附属する計画委員會である。

かくてこれらの纒めあげた計画を最後的に総括するのが國家計画委員會である。

計画作成の順序

計画を作成するための計画事業は、聯邦ゴスプランの計画作成によつて完成される。ゴスプランは、各共和國、各地方、各都市、各人民委員部からの通達を検討した後、全聯邦國民經濟の終局的統一的計画を作成し、これを聯邦政府に提出してその確認を求めるのである。

今計画作成の過程を示すと大体次のやうな手続をとつて行はれる。――

第一段階――訓令及び限度を決定し、これを執行者に交附する。

第二段階――訓令及び限度に基いて計画そのものを作りあげる。工場、農場等々における対策の作成から始まり、計画機関の体系を通過し、黨機関及び政府に於ける計画是任を以て終る。

第三段階――是認された計画を執行者に伝へる。

第四段階――計画遂行の行程における計画の是正、精密化及具体化。

今この諸段階を図示すれば次の如し。

以下この三段階を詳細に説明することゝする。

第一段階――

訓令というのは案作成の根本方針を示したもので、党大會及び党中央委員會によつて研究され、規定される。そしてこの訓令に基いて、限度（数的指標）が与へられる。全國的訓令及び限度は、計画機関の手によつて、州、共和國、地區毎に精密化され、個々の企業に交付される。企業が訓令及び限度を受取つた時に、計画化の第二段階即ち対案の作成が始まる。そしてこれこそ計画の骨髄であり、計画そのものである。

第二段階――

計画がいよ／＼最後に労働場所に交付されると、大衆の直接的な計画活動が始まる。ソ聯邦の計画化の実践において最も興味を与へるものは、企業、工場、仕事場、鑛山、ソヴエト農場等における計画の立案及び実現の過程即ち下部計画である。計画は全て經濟及び文化のあらゆる部門における権威ある専門家の多数のスタッフを擁する特殊の計画機関のみの諸活動の生産物ではない。レーニンは經濟計画の中央集権主義の官僚的歪曲に対して猛烈に攻撃した。

「陳腐な型に固定することや上から無理に統一することは―とレーニンは云

つた―民主々義乃至社會主義的中央集权と何等共通なものをもつてゐない。基本的には、根底的には、本質的には統一は害されてはならないが、細目においては特殊的な部分では、事物の取扱方法では、統制の遂行方法では多様性が確保されて然るべきである」。これは特殊計画機関の体系によつて作られる計画が如何に理想的なものであつても、それは各工場、仕事場、鑛山、コルホーズ、ソフホーズ等々が有するすべての生産能力を考慮に入れ得るものではないことを物語つたものと思へる。

ではソ聯邦における幾百千の企業において、これらの大衆的計画事業即ち呼應計画はいかにして組織されるか？

各企業には社会的細胞の形態をもつ計画的作業團があり、これが企業や仕事場や鉱山における計画事業を指導するのである。トラストから企業がその任務を得るまでは、この計画的作業団は工場や仕事場　の職業組合や計画機関と共に、その企業や仕事場や鉱山やその集団等の技術的能力を研究し合理的提案を蒐集するために活動し、個々の機械の損傷の原因をたづね、作業過程の技術を研究する等々である。その工場に指定された計画を作り上げるために、計画的

作業団は呼應計画を吟味し、改善するために大衆的活動を展開する。

この際特に注意されることは次の諸事実の解明である。即ち(一)すべての国内資源および鉱山ー個別的には結合機械や組立機械ーの生産能力　(二)原料品、燃料動力等の節約、(三)不足原料と過剰原料の交換　(四)労働力利用の改善と労働の生産性の向上、(五)労働条件の改善と合理的考察の採用。

共営農場において呼應計画が提案される場合特に注意される事項は、(一)収穫率引上げのための諸方策、(二)農業技術上の諸方策の改良と実施、(三)損耗を減少するためのあらゆる努力、(四)農業機械の利用方法の改善等々である。

呼應計画に関するすべての提案は、作業班内の労働者によって充分検討され、次には仕事場内の生産競技会において、更には全工業又は全コルホーズの集会において検討される。かくて諸指導機関の吟味と確認を経たのち呼應計画は集団の活動全体の基礎となり、作業班や仕事場や全工場や全コルホーズの間の競争が実施される際の基礎となる。

競争が行はれる場合には、競争しつゝある各作業班は何れも計画内に示されてゐる作業指標よりもなるべく高い作業率を示さんと努めるのである。

かくして作成された呼應計画即ち対案によって具体化された計画は、逆のコースを踏んで諸々の計画機関に伝送される。

斯様にして個々の企業の経済計画は、部門別に総括され、地区別に統一される。

ソ聯邦の最下級行政＝経済単位は、人口五万乃至十万を有する地方である。地区計画委員会はその計画を地方計画委員会に提出し、この委員会がまたその地区提出計画を基礎としこれを検討して地方計画を立案する。かくて作られた計画はその地方の所属する共和國の計画委員会に提出される。ソ聯邦はこれらの地方及び共和国の計画を検討した後、この共和国はその全計画を樹立してゴスプランに提出する訳があって、斯の如くして個々の企業の経済計画は、部門別、地区別、地方別、共和国別に総括統一され、最後に統一国民経済計画が作成される。

第三段階――

統一された国民経済計画が、最高機関によって確認されると、それは更に労働場所に交付される。

以上が上党大会より下仕事場に至るソ聯邦計画経済体系による国民經濟計画案作成の順序である。

長期計画と短期計画

任意の計画を立てるにもその一般的目標を決定するだけでは不充分である。知らねばならぬことは、第一には、何等かの国民経済上の任務の遂行される期間が如何程長くかゝるかといふこと、他方には計画の行はれる地理的範囲、すなはち個々の州、地方、工場、ソフホーズ、コルホーズ等々に適用される計画の大きさが決定されなければならぬ。

しかしその際にも、次のやうな原則的問題が発生する。乃ち計画はそれが更新されるまでの最短期間は如何程の長さであらねばならぬか、或ひは幾分か長期の見透しを立てその長い期間の全体に亘る主要任務を作り上げ更にそれを基礎として、より短期間の計画を作製することが必要である。

そこでソ聯邦に於ては、計画活動を実行する際には、多年月、一ヶ年、四半期計画が作られる。国民経済の社会主義的復興と社会生活の改造といふ大事業の解決のためには、短期間の計画に限定することを得ない。從つてソ聯邦における計画化の根幹をなすものは多年月計画即ち見透計画である。

「見透計画」

見透計画は通常五ヶ年となつてゐて、その最初の計画が一九二八年ー三二年の間の期間として作成された所謂第一次五ヶ年計画である。第二次五ヶ年計画は一九三二ー三七年に遂行される予定のものであつて、本年はその最終年度に當つてゐる。

「統制数字」

ソ聯邦国民経済統制数字とは、五ヶ年計画の一ヶ年分のことを云ふのである。ソ聯邦において最初に統制数字が作成されたのは、ソ聯邦史上所謂復興期と呼ばれる期間における一九二五年の夏であつた。当時の国民経済計画は未だ統一的なものではなく、農業は租税、物價、信用、機械供給等を通じて、間接に働きかけられてゐた。商品流通の計画化の状態も殆んどこれと同様であつた。從つて統制数字そのものは経済発展の見透しの、義務的でない極く大まかな総括に過ぎなかつた。統制数字は国民経済計画の予備的な代案の役を演じてゐた。

而して実際の計画はずつとおそく即ち農業の収穫、工業の生産の見透しが明かとなつてから、即ち計画年度の半ば過ぎ或は終りに近づいてから諸人民委員部によつて作成されたものであつた。

然しながら斯様な大まかな見透しのプランを有たない統制数字のは第二回即ち一九二七―二八年度の作成によつて終りを告げた。集団化された農業は、益々直接的に計画化の下に置かれるやうになつた。個人農に対する生産上の補助制度や、予約買付や、協同組合や、配給等を通じて個人的農民経営を計画化し規制し得るやうになつた。またこれと同時に以前計画的指導を直接に受けてゐなかつた文化建設、科学、藝術、生活状態等の諸部門も次第に計画され始めた。従つて統制数字はこゝに国民経済と文化との統一的計画と化した。即ち社会主義建設の進展、全国民経済の統制数字の作成に積まれた経験、第一次五ヶ年計画の作成――これらの前提によつて統制数字は国民経済計画に転化せしめるに至つた。今や統制数字は以前のそれと大いに面目を改め、国民経済計画の発展における第一の階梯であり、国民経済の計画的指導の方法となり、有機的要素と化した。従つて統制数字と国民経済計画との相違は、社会主義建設の階梯における相違によつて決定される。

「年度計画と四半期計画」

五ヶ年計画は、政府の一般的方針に基いた一般的任務ら出発して、各年度計画を与へる。即ち各年度毎にその年度内の計画が立てられ、その中で五ヶ年計画中でその年に該当する任務が具体的に定められる。最後に各年度のうちでは、更に四半期毎に一定の特殊計画が立てられる。これはその年次の計画を考慮して、夫々各三ヶ月の特殊事情を斟酌した上各四半期毎に定められるのであるが、季節的経済部門―農業、運送、建築、林業―については特に充分な考慮が払はれてゐる。

而してこゝに注意しなければならぬことは、四半期計画が年次計画を四半期間において単に繰返すものでないといふことである。年次計画と四半期計画の区別は、後者が一層具体的であるといふ点にあつて、四半期計画は年次計画を精密化し、訂正するために利用されるものである。

またこの他に、商業、工業と各個々の経済部門につき、一ヶ年、数ヶ月、一

ヶ月、十日、五日、一昼夜計画が適用されてゐる

これら各種の諸計画は、単に経済全体に対して綜括的に又は個々の経済部門、例へば工業、農業等に就ても作られるばかりでなく、更に一定の地区的区域に就ても作られる。ソ聯邦の各行政的－経済的区劃、即ち全聯邦ソヴェト共和国、或は自治共和国、地方、州、縣はその経済及び文化の発展に関して樹てられた一定の計画を予め通達されてゐる。また各これら期間を異にした各種計画は、各工場、学校、研究所等々にまで及んでゐるのは勿論である。

計画経済の進展と複雑化

計画事業が組織された日から、レーニンは科学や技術の巨匠連を国民経済計画の作成に招集するといふ任務を提示した。レーニンの提議によりゴエルロ計画の作成には約二百人の最も著名な学者や技師が招集された。

第一次五年計画の作成の場合にも、人民委員部や中央機関の専門家が数百人招集され、計画の個々の問題を審議するために國家計画委員会は数回の大会を招集してゐる。

第二次五年計画の作成には、ソ聯邦科学界の权威者達が更に大々的に招集された。五ヶ年計画作成のために科学院が招集され、二百の科学研究所、三百人の科学者が招集されてゐる。これは計画の複雑な経済的技術的諸問題を正しく解決する上に大いに役立ってゐる。

第一次五年計画の時代においては、計画の編成をめぐる人民委員部、諸企業合同、諸企業は計画活動の有機的構成分子であった。ところが第二次五年計画編成にはその上にコルホーズが参劃してゐる。

第二次五年計画は、ソ聯計画経済史上の新たな道標、より高度の段階を示すものと云へやう。第二次五年計画は、計画対象包括範囲の広範なこと、技術的、科学的基礎の強化といふ点において第一次五年計画と異ってゐる。第二次五年計画において始めて全国民経済が直接的具体的計画に包括されたのである。

第一次五年計画は一般指標（生産量、労働者数）のうちにたゞ工業調査を受ける大工業を含めてゐるに過ぎず、小さな家内工業は含まれてゐなかつた。第一次五年計画は、本質上、全生産中僅か六一％に過ぎぬ旧国民経済会議所属の規模を更に大きくして計画したに過ぎなかつた。

第二次五年計画になつてから、直接的な計画化によつて大小の全工業を包括するに至つた。生産協同組合や地方工業生産、さらには非生産的人民委員部、即ち人民委員会議準備委員会、活動寫真＝寫真工業國家管理局、敎育人民委員部、公共団体の工業も、これによつてその活動方針と規模を決定されてゐる。

第一次五年計画では、詳細な部分迄作成された計画によりほゞ五十の工業部門を包括してゐたが、第二次五年計画は既に百二十の部門を包括してゐる。機械製作について見れば、第一次五年計画では、汽車、貨車、犂、播種機及びトラクターについて現物指標が出された丈けであつたが、第二次計画ではこの現物指標は三十六の対象について出されてゐる。食料品工業では、第一次五年計画は僅か六部門を計画したが、第二次五年計画ではそれが十五部門に亘り、詳細な計画が編成されてゐる。

而してこの計画化の発展は、農業において一層鮮かに現はれてゐる。第一次五年計画では詳細な計画は、主として工業に限られてゐたが、第二次五年計画には農業発展計画の詳細な各部分に至る細かに作成された計画が加へられてゐる。例へば第一次五年計画では、穀物といふ集合的名詞が用ひられてゐたが、

第二次五年計画では、それが小麦、燕麦、玉蜀黍、蕎麦、豆、米に分れてゐる。

斯くして包括力は益々増大し、計画経済は愈々複雑化して来た。そこで国民経済の各種部門と部門との、生産と消費との、工業と農業との、労働力の需要と幹部の養成等の調和を得るために材料対象表及び綜合的対照表の必要が益々多くなり、第二次五年計画に入つてから、機械と設備、黒色金属と有色金属、建築材料、燃料、電力、農業用車輛、輕工業及び食料品工業用の原料、生産及び国民収入の分配等々の対照表が作成されてゐる。

第二次五年計画の特徴は、技術＝生産指数の廣汎に作成された複雑な体系であつて、この技術＝生産指数は（第二次五年計画のそれは約三百である）計算上の量としてではなく、端的な計画的任務として与へられてゐるのである。

而してこのことは、計画化が非常に科学的となつたことを示し、技術的に根を下ろし出したことを意味してゐる。

計画經濟下にあるソ聯經濟事情

では斯様な大仕掛な、ソ聯邦を特徴づける計画經濟によつて導かれるソ聯邦

の經済事情はどんな具合であるか？　以下第一次五年計画及び第二次五年計画の実績によつてその間の事情を見ることにしやう。

「第一次五年計画の実績」

第一次五年計画は、一九二七年十二月の第十五回党大会において提唱され、その実施に関する政治経済的一般的方針が決議されて始めて具体化したものであつた。而して第十六回党大会と第五回ソヴェト大会によつて確認され、国民経済の社会化農業、農業の社会化、階級的相互関係における著しい躍進を目的とするものであつた。

はじめ一九二八年十月から一九三三年九月末に至る満五ヶ年間に遂行される予定であつたが、途中「五ヶ年計画を四ヶ年に」の標語の下に一年繰上げられ、一九三二年末に至る満四ヶ年と三ヶ月を以てうち切られたものである。

ではその成果はどうであつたか？　これについてソ聯国家計画委員会の発表した總決算に関する特徴的な数字を若干あげて見ることゝしやう。

一、四ヶ年三ヶ月の工業建設への投資額は五ヶ年計画に予定された百九十一億

留に対し二百四十八億留であつた。また同期間の重工業への投資額は百四十七億留に対する二百十三億留であつた。

二、工業總生産高は、一九二八年の百五十七億留から一九三二年の三百四十三億留となり、二一八・六%の増大であつた。而して一九三二年の工業生産高は戦前の水準を超過すること三倍余であつた。而して全般的に見れば工業生産高は當初計画の九三・七%の遂行であつた。

三、工業と農業との関係は根本的に変化し、全国民生産における工業の割合は一九二七―二八年の四八%とから一九三二年の七〇%となつた。

四、工業化の進展は生産手段の生産比率の増大の中にも表はれてゐる。一九二八年における規格工業の總生産高に対する生産手段の生産比率は四四・三%で消費資料の生産が五五・七%であつたが、一九三二年の生産手段の總生産高は一九二八年に対し、一五七・一%増大し、消費資料のそれは八七・三%の増大であつた。斯くて重工業は大いに發達し、以前の農業国は工業国と化した。

五、一九二八年展開された富農撲滅運動は効を奏し、新しいコルホーズ制度の創設は富農階級を掃蕩してしまつた。そして二十数萬のコルホーズ、五萬のソ

フホーズ、二千五百のＭＴＳが創設された。即ち農業の社会化を大いに保障した。

六、五年計画の諸年度において、播種面積は一億一千三百萬ヘクタールに増加した。

七、工業と農業の発展は、鉄道及び水上運輸の大なる発展を喚んだ。一九三二年度における五年計画の課題は、鉄道の貨物輸送実績において一〇四・一%、旅客輸送実績において二三七・六%の超過遂行であった。

八、水運においても相當の実績があげられた。一九三二年の河川運輸は、五年計画の最終課題を凌駕すること三・三%であつて、大戰前の水準に比較すれば、一三八%、一九二八年に比すれば一八一%となつてゐる。

九、五年計画の當初尚百五十萬の失業者を算したが、一九三〇年にはこれを完全に消化し、第一次五年計画の期間にソ聯労働者及び勤務員の数は千百五十九萬人から二千二百八十萬人に増加した。

以上はソ聯邦當局の発表である。ソ聯邦外の諸国からは無条件成功説と失敗説とが傳へられたが、何れにしても無条件成功説を信ずる訳には行かない。それはソ聯邦當局の発表するところでもあつた。

それは即ちソ聯邦當局が計画実施に着手前予想してゐた諸条件が単に欠けてゐたのみならず、多くの場合条件が予想より悪かつたことにもよる。今その例を挙げて見るとその悪条件とはほゞ次のやうなものであつた。

一、一九三一年東部の穀物地方が悪天候に災されて、一億七千萬ツエントネルも減收した。

二、一九二九年より起つた世界恐慌は著しく信用貸を收縮せしめ、世界貿易を全面的に減少した。多くの資本主義国家の対ソ貿易条件を著しく悪化し不利にした。即ち一九二七－二八年の英国の通商条約の破棄、国交断絶、一九三一年の米国における反ソ的輸入禁止手段の増加、世界市場における物價の急激な下落。農産物と工業生産物との鋏状價格差は擴大し、原料品輸入に大きな妨碍をなした。

三、戰争の危険の増大、就中満洲事変の突発はソ聯邦をして国家の防禦力を改善するため国防プログラムの増加を余儀なくさせた。

以上のやうな悪条件下に五ヶ年計画が運営されて行つたことは事実であるが、一部の人の云ふ全面的失敗でなかつたことは事実であつて、プラスとマイナスの両部面を見れば、大体においてプラスの方が重かつたと見るのが妥當であらう。

「第二次五年計画の実績」

第十七回党大会で確認された第二次五年計画は、第一次計画の終了と同時に、即ち一九三三年から開始され、今年はその五年目であり最終年度である。

而して第二次五年計画の主要任務は、

一、資本主義分子を完全に排除し、階級的差別とその原因を取除き、

二、国民経済の全部門に亘る技術的改造を実現し、

三、人民の物質的生活を引上げ、一九三二年度と比較してその消費を二倍－三倍増加せしめんとすることである。

以上の任務が果してどんな具合に解決されてゐるであらうか、これまたソ聯當局の発表によれば、一九三五年度までの三ヶ年間と昨年度の遂行状態からして成功的に遂行されてゐることが明白だとなしてゐる。「第二次五年計画の遂行状態」と題する「計画経済」誌一九三六年第七号のヴェ・メジュラウクの論文及びその他の資料に基くと大体以下の如くである。

第二次五年計画の第一の課題たる階級的差別の除去が徹底的に勝利を収め、国民経済は完全に社会化され、この方面に於ける任務は一と先づ解決し、都市労働者と農民との間の矛盾が原則的に消滅し、この事実に基き新憲法第四条は「ソ聯邦の経済的基礎は資本主義的経済制度の精算……社会主義的経済制度及び生産手段並びに生産機構の社会主義的所有である」と規定されてゐる。

一九三五年末における基本的生産設備中に占める社会化経営形態の占める割合は九八・五％となり、これに反し国民所得中に占める社会化経営形態の比率も一九三二年の九三％に対し一九三五年には九七・八％となつてゐる。

更に最も困難だつた農民の集団化も一九三五年末には全農家戸数の九〇％へ地方によつては九五％）がコルホーズに加入し、二十四萬九千百ヶ所のコルホーズの中に包括されてゐる。

第二の重要任務、即ち技術的改造においても、投資額は第一次五年計画中の